(100)

志賀重昂先生 [redacted] 閲

菅 菊太郎著

極東時局私見

国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 305

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

自序

余嘗見私カニ外交ノ國運消長ニ關スル所ノ識者ノ一端ヲ窺知シ初メテ學ニ志スヤ欧米ニ遊ヒ歸朝ノ後ハ身ヲ政界ニ投シ又一時ハ實業ニ從事シ晩年ニ及ヒ再ヒ政界ニ入リ前後三回ノ渡歐ニ際シ其ノ往復ノ途次ニ於テ又ハ滞歐中屢々歐洲ノ大局ニ關シ或ハ日本ノ地位ニ關シ或ハ東西文明ノ交渉ニ關シ或ハ世界ノ大勢ニ關シ或ハ國家ノ前途ニ關シ或ハ外交ノ機微ニ關シ或ハ國運ノ消長ニ關シ或ハ學術ノ進歩ニ關スル所感ノ一端ヲ漏洩シ又ハ之ヲ談話ニ發表シタルコト尠カラス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

自序

余夙ニ外交ノ國運消長ニ關スルコト大ナルヲ見私カニ心ヲ潜メテ之カ研讀ニ從事スルコト年アリ曩ニ余ノ札幌農學校ニ在ルノ時一措大ノ身ヲ以テ自ラ揣ラス日欧交通ノ起源史ヲ草シ本邦ト泰西トノ交通初期ニ關スル研究ヲ公ニシテ世上ノ識者ニ質ス所アリタルモ畢竟平素懐抱スル所ノ一端ヲ示スニ過キサルナリ一昨年學程ヲ辞スルト共ニ宿志ヲ齎シテ露清境上ノ地ヲ踏ミ親シク露國康漸ノ勢ヲ査察スルニ及ンテ往年ヲ回憶シ向来ヲ想起シ俯仰感慨ニ堪エサルモノアリ歸来幾モナクシテ清國義和團ノ事變起リ列國吁應シテ肉薄シ清ノ國命今

ヤ累卵ノ危キカ如ク極東全圖ノ時局亦等シク
危機一髪ノ急ニ瀕セルモノ、如シ嗚呼皇天志
士ノ赤心ニ識ヲ投スルカ年サ再ト揣ラス慨然、
トシテ筆ヲ取リ極東問題ノ解決ヲ試ミ露國ノ
東漸清國ノ前途ニ一大光明ヲ照シ我帝國ノ處
局ヲ詳カニシテ他日ノ憾ミヲ貽サンヲラシメン
ト欲スト雖ヨリ暴虎馮河ノ業而已而モ自ラ進ン
テ這般時局ノ大問題ヲ捉ヘテ之カ解釋ヲ試ム
ルモノ斯業ノ陳勝呉廣タルヲ希フモノニ外ナ
ラス世之ヨリ完璧ノ大著ニ接スヘキヲ疑ハス
明治三十四年三月　東京赤坂喬居ニ於テ
菊太郎識

極東時局私見總目次

第一章　極東問題ノ急轉直下

(一)　支那帝國ハ極東ノ重鎮タリキ
(二)　欧米諸國永ク支那帝國ノ実質ヲ知ラス
(三)　時世ノ変遷ハ支那帝國ノ一傀儡ニ過キサルコトヲ暴露セスンハアラス
(四)　日清戦争ハ支那ノ無能ヲ暴露シ新極東ヲ開ク
(五)　日清戦争ハ極東問題ヲ急轉セレメタ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

〃而シテ英利害如何

(七) 新極東ニ於ケル新日本ノ興起

(六) 日本外交ノ失敗ト今日ノ難局

第二章 輓近極東ニ於ケル列國ノ突進

(一) 日清役中ニ於ケル列國ノ干渉

(二) 列臨對清政局ト風雲ノ晴濛ト危機発セントシテ発セス

(三) 山東兗洲府ノ虐殺ノ猶逸ノ膠洲灣占領

(四) 旅大ニ於ケル露國ノ突進ト列強ノ驚愕

(五) 英國ノ狼狽ト威海衛及九龍半島ノ割據

(六) 佛國ノ廣洲灣割據ト南清ノ経営

(七) 支那内地ニ於ケル列國鐵道敷設権ノ獲得

(八) 韓山ノ風雲ト日本ノ極東危機ニ処セル態度

(九) 列國ノ突進ニ伴フ清國戊戌ノ政変ト

(十) 英露ノ角逐列國突進ノ反動ト義和團匪

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

第三章　欧米列國ノ對清政策

(一)　英國ノ對清政策如何
(二)　独逸ノ對清政策如何
(三)　佛國ノ對清政策如何
(四)　米國ノ對清政策如何
(五)　開戸政策及勢範分割ノ要概ニ列國ノ關係

第四章　露清交渉史論

(一)　ロシアノ西比利亞征服ヨリムラビヨフノ愛琿條約締結ニ至ル
(二)　露國支那研究時代ニ於ケル露清ノ葛藤ニ聖彼得斯堡條約
(三)　中央亜細亜ニ於ケル露國ノ深慮遠謀ト支那及朝鮮ノ模則
(四)　露國ノ深慮遠謀ト支那及朝鮮ノ模則調査
(五)　日清戦争ト露國ノ干渉ニカシニー條約
(六)　「カシニー」協約ノ内容ニ露国満洲経営ノ敏速
(七)　露国ノ膠洲灣占領ニ次キ露ノ旅大割

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

機ノ露国海軍ノ新時元

(八) 大平洋面ニ於ケル露國海軍ノ発展ノ旅順口ノ不具

(九) 咸海衛ニ於テ英國ト折衝スルノ満洲占奪ノ機ヲ窺フ

第五章 露國ノ對極東政策及露清特別関係

(一) 露国ノ極東ニ開展セサルヘカラサル理由

(二) 西比利鐵道ニ伴ヒ極東ニ於ケル露国ノ開展

(三) 極東ニ於ケル露国ノ希望ノ露国極東邊都

(四) 清国ハ清初何故ニ露國ヲ疎ンシ英国ニ親シミタルカ

(五) 清国ハ戦後何故ニ英國ヲ疎ンシ露國ニ親マントスルヤ

(六) 露清和親ヲ致スヘキ因由(一)血族ノ関係

(七) 露清和親ヲ致スヘキ因由(二)歴史上ノ関係

(八) 露國ノ對清政策如何

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 305

第六章　欧米ノ極東問題ト人種問題ト黄禍説ノ解釋

(一) 欧米諸国ノ極東政策ニハ人種的感念ヲ去ルコト能ハス

(二) 黄禍感念ノ史的起因ハ其一、匈奴（ハンス）

(三) 黄禍感念ノ史的起因ハ其二、韃靼（タータール）

(四) 黄禍説ノ唱導者及其立論ハピヤソン氏

(五) ピヤソンノ黄禍説ニ對スル反駁論ハカールスレ氏

(六) 日清戦争後黄禍説ノ再燃ハ独帝ノ黄禍風刺画

(七) 近時ノ黄禍説及其論勢

第七章　支那帝國ノ運命

(一) 支那ノ運命ヲ左右スル要素

(二) 支那人ニ愛國心ナシ（保国要素ノ一）

(三) 支那人ニ国民的團結力ナシ（保国要素ノ二）

(四) 国民道徳心ノ欠乏（保国要素ノ三）

(五) 支那国民戦闘力ノ窮乏（保國要素ノ四）

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

(六) 支那ヲ誘導スルノ大経世家ナシ（一係国要素ノ五）

(七) 支那ノ歴史ハ城ヲ城ニ近ケルヲ教ユ（一係国要素ノ六）

(八) 清国政制ノ不適内外ニ於ケル政治ノ不信用（一係国要素ノ七）

(九) 外来ノ勢力ハ支那ノ城ヲ城ニ近ケルヲ促ス（一係国要素ノ八）

(十) 支那帝国ハ遂ニ係全スヘカラス

第八章 支那帝國ノ前途如何

(一) 列國ハ支那ヲ如何ニ分割スヘキヤ

(二) 支那人ノ将来ハ如何ニ成行クヘキヤ

(三) 支那ノ一部ニ共和政治ヲ見ルノ理想

(四) 支那布教問題ノ前途如何

第九章 結論―日本ノ處局

(一) 極東問題ノ大勢

(二) 日本ハ如何ニシテ支那ニ對スルヤ

(三) 日本ハ如何ニシテ露國ニ對スルヤ

(四) 日本ハ如何ニシテ英国ニ對スルヤ

(五) 支那ヲ東洋ノ欧羅巴タラシメヨ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

If the Tsar and Mikado desire peace and friendship no conflict can be arise between Russia and Japan and the desirous of enlightend rulers are more farseeing than those of an impulse, irresponsible people.

..... Vlademier.

No pleasure is comparatible to the standing upon the vantage-ground of Truth.

..... Bacon.

極東問題ノ歸結ト日露提携

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

Books to Reference.

Boulger, D.C.	The History of China.	1899.
Beresford.	The Break-up of China.	1899
Brokwalter.	Siberia and Central Asia.	
Bird, I. L.	The Yangtze Valley and Beyond.	
Beulieu.	Awakening of the East.	1900
Boel. E.	Les Chinois Chez-eux.	1894.
Brandt, M.	Ostasiatische Fragen.	1897.
"	Die Zukunft Ostasiens.	
Colquhoun.	China in the Transformation.	1900.
"	The problems in China and British policy.	
"	Overland to China.	1900.
Curzon, G.N.	Problems of the Far East.	
Colquhoun.	Across Chrysé.	1883.
Cornabé, V.	Rambles in Central Asia. China.	1896.
Cunningham.	A Young peoples History of the Chinese.	1894.
Conrady, A.	Die Beziehungen der Chinesischen Kultur zur Abendländischen.	
Cooke, Geo.	China.	1896.
Davis, J. A.	China.	
Diosey, A.	The New Far East.	
Douglas, R.K.	The Language and Literature of China.	
"	China.	1899.

Lehmann. Das Judenthum in Russland.
Little, A. Through the Yang-tze Gorges.
Lerich, V. Etude économique et politique sur la Question d'Extrême-Orient. 1895.
Lestrade. La Russie économique et Sociale.
Meadows, T.T. Desultory Notes on the Government and people of China. 1849.
Mayers, W.F. The Chinese Government.
Morfill, W.R. Russia.
Makam. The Problems of Asia.
Martin, R.M. China. 1847.
Morrison. An Australian in China.
Pumpelly, R. Geographical Researches in China.
Pearson, C.H. National Life and Character.
Planchut, E. China and the Chinese. 1849.

Ravenstein. Russians on the Amoor.
Rawlinson. England and Russia in the East. 1875
Smith, A.H. Chinese Characteristics.
Scidmore. China. 1900.
Smith, etc. The Crisis in China.
Silvestre. La Russie.
Selby, T.G. China-men at Home. 1900.
Shiel, M.P. The Yellow Danger. 1899.
Simon, G. La Cité Chinoise. 1894.

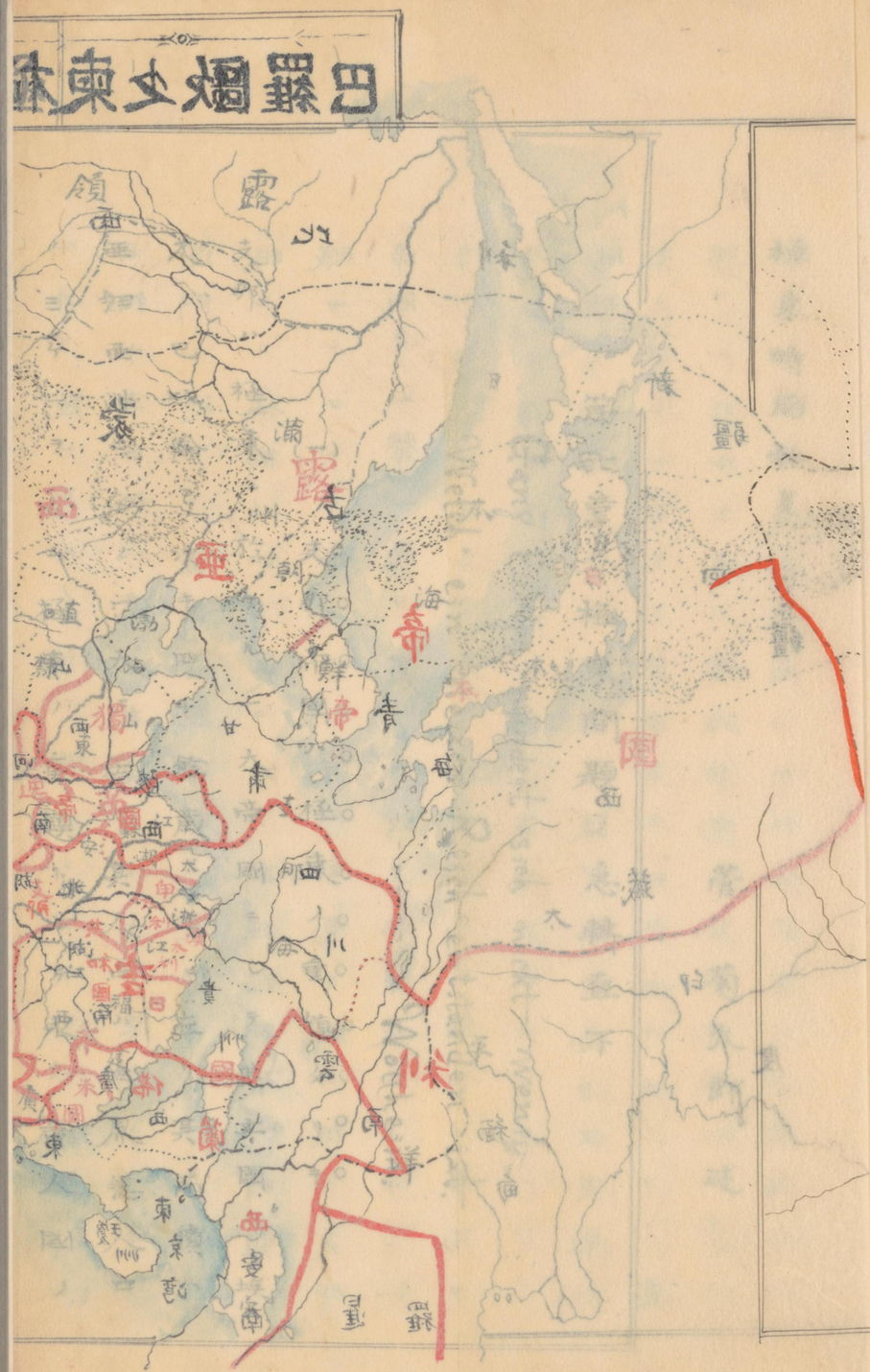
" Society in China.
Ehlers, O.S. Im Osten Asien. 1896.

Foord, J.A. An American cruiser in the East.

Gowan. A History of China. 1897.
Gorst, H.E. China.
Grundy, R.F. China and her Neighbor
Hung. Travels in Tartary, Thibet and China.
Holcombé. Real China-man.
Hesse-Wartigg China and Japan. 1898
Holland, T. The European Concert in the Eastern Question. 1881.
Holcombe. The Real China Question. 1900.
Huc, Abbé. Travels in Tartary, Tibet, and China.
Johnston, J. China and Formosa. 1895.

Krausse, A. The far East its History and Question. 1900.
" Story of Chinese Crisis. 1900.
" Russia in Asia. 1899.
" China in Decay. 1898.
Kreitner, G. Im fernen Osten.
Lacoperie. Western Origin in the Early Chinese Civilization.
Lockhart. Dr. Medical Missionary of China.

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305



Tikhomirov. Russia, Political and Social.
Tcheng-ki-tong. The Chinese Empire, part and present. 1898. 1900.
Tikhomirov.
Thompson. Russian Politics. 1896.

Vladimier. Russia on the Pacific and the Siberian Railway.

Walton. China and the present Crisis.
Williams. Middle Kingdom.
Wildman. China's open door. 1900.
Will, A.S. World Crisis in China. 1900.
Yule, Col. H. Cathay and the Way Thither.

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

極東之歐羅巴

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

極東時局私見

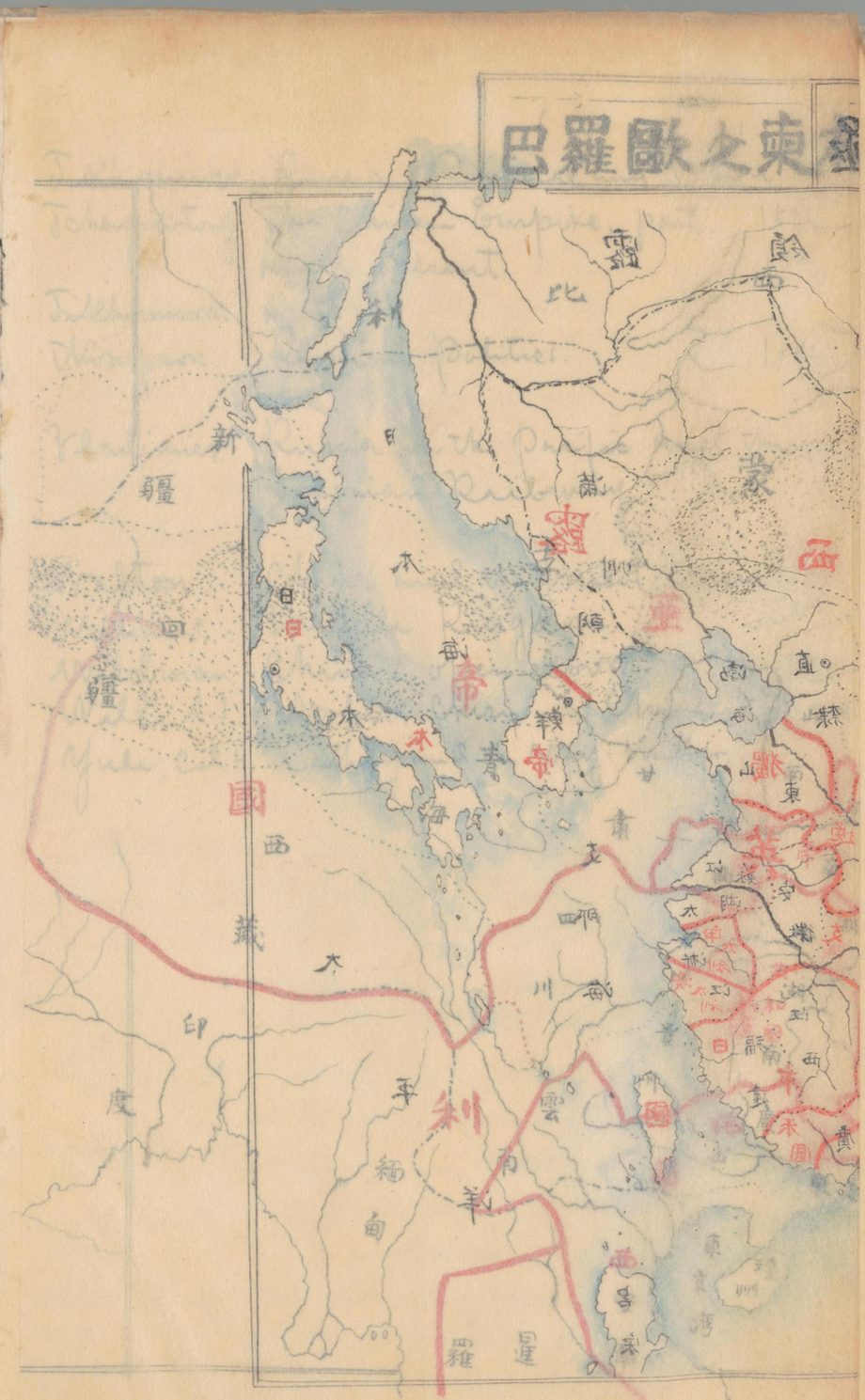
菅 菊太郎 述

第一章 極東問題ノ急轉直下

Gang Europa Wunderht sich
Welch ein neues Reich entstanden ist.
Wolfheim.

(一) 支那帝國ハ極東ノ重鎮タリキ

支那ハ極東ニ於ケル一大帝國ニシテ其立國ハ埃及、巴比倫ニ次キ四千餘歳ノ古ニ在リ其面積ハ亜細亜洲ニ分ノ一大ニ居リ其人口ハ世界総人口ノ三分ノ一ヲ占メ極東ノ重鎮トシテ永ク黄人國ノ



国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

牛耳ヲ握レルモノ洵ニ偶然ニアラサルヲ知ルヘシ
而紀十五世紀以来西力侵々トシテ東漸シ極東ノ
関門ニ迫ルト雖モ恭然不動ノ支那帝国アリ宛然
眠レル猛獅ノ如シ是ヲ以テ列強路頭竣巡時難ヲ
釀サンコトヲ怖レテ一挙一動苟モセス概子支那
帝國ノ一顰一笑ヲ買フヲ以テ能事尽ルトナシ一
時ヲ糊塗シ去レリ是ヲ以テ容易ニ極東ノ事局ヲ
左右スヘカラス偶々誤テ事端ヲ生スルモノアリ
ト雖モ後患ヲ恐レ笑々善後ノ計ヲ怠ラス其戦競
自ラ安ンセサル、態度タルヘキモノアリ露
國カ一八四五年ノ愛琿條約ニ依リ黒龍江一帯ヲ
得タルカ如キ英佛二國カ一八六〇年ノ同盟軍ヲ以
テ北京ヲ陥レタル時ノ如キ皆事後ニ於テ清國ノ
歓心ヲ得ルニ勉メ所謂賣恩懐柔ノ策ヲ施シ頗ル
戒慎ノ挙作アリタルヲ見ルヘシ而シテ極
東ノ重鎮依然トシテ同ノ如キ其間ハ極東問題ハ
未タ世論ヲ喚起スルノ急ニ瀕セサリシナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

（二）

欧米人ハ能ク歴史的ニ黄人ノ憚悍獰猛ナルヲ知レリ依テ其甲堅タル支那帝国ニ向テハ警戒最モ深カラサルヘカラス摩国ノ憤怒ニ触レテ戈ヲ以テ相見ニルノ時ハ到底其掬壓スヘカラサルヲ想ヒ只管媚フルカ如ク侵子ルカ如ク慰撫是レ勉メ専ラ通商貿易上ノ利益振ヲ擴張スルノ外何等領土上ノ慾望ヲ存セス然レトモ列国ハ心ス支那ノ実力ヲ観測シ得テ然ルモノニアラス畢竟支那ノ国体、国力、及ヒ民性共ニ天外雲漢ニ莽ラレ之ヲ容易ニ端倪スヘカラサル怪物トシテ一大疑問點ヲ附スルニ止リシナリ故ニ之ヲ換言スレハ列強ハ永ク支那ノ傀儡的歴史的ノ威力勢力ニ憚伏セルモノト云フヘシ而シテ支那自身モ亦已ヲ知ラス專ラ其歴史的遺傳性ニ由リ自ラ極東ニ於ケル東道ノ主人公ヲ以テ居リ所謂中華ヲ以テ任シ頗ル倨傲尊大ノ態度ヲ以テ日本ニ對シ朝鮮ヲ處レル欧米列強ニ當リタリ支那ハ想ヘラク極東ハ是レ自己ノ勢力版圖ナリト乃チ知ルヘシ當年ノモンロー主義ハ其ロヲ衝テ出テンレテ支那人タラシメハ極東モンロー主義ヲ持セラレタルノ間ハ則チ黄人カ牝ヲ高フシテ眠ムルヲ得タルノ時

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ニシテ極東問題ハ更ニ世人ノ視線ヲ惹クヲ要セサリシナリ而シテ今也乃チ然ラス

(三) 時世ノ変遷ハ支那帝國ノ一傀儡ニ過キサルコトヲ暴露セスンハアラス時世ノ変遷ハ西ニ西比利鉄道ノ開通トナリ東ニカラガ運河ノ開鑿トナリ極東ハ環球面上ノ唯一交衝点タラントシテ無尽ノ富源ト無疆ノ邨土無比ノ宝藏タル杉大支那帝國アリ其位置其形勢ニ於テ世人注目セサルヘカラス而シテ泰欧列強カ二十世紀ニ於テ中原ノ鹿ヲ争フノ地極東ノ外ニ之アルヘカラスト雖モ既ニ早ク卓眼ナル政治家ノ想見シタル所ニシテ極東問題ノ禍機其伏在スルヤ固ヨリ久シ矣西暦一八四一年ニ於テ広東港ノ砲臺

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

下ニ鞭々タル英艦ノ砲聲ヲ聞キ遠ク日本ノ海岸ニ響應シタルモノハ明カニ是レ極東ニ一新局面ヲ打開スルノ先駆者タラスンハアラス之ヨリ極東問題ハ日一日ト其解決ノ時ニ進漸シタルモノト見ルヘキナリ而シテ今茲ニ覺知スルモノ既ニ遅シトセス傀儡帝國ノ極東禍機ヲ柳壓シ傀儡帝國ハ永ク傀儡帝國タルヘカラス傀儡帝國ニシテ其真相ヲ暴露スルノ時ハ勢ヒ禍機爆然ト破裂セサルヲ得ス今ヨリ而シテ十年前ニルーソーが支那ヲ以テ列強ノ爭點地タルヘシトナシタルモ！柳モ識ヲナシンタルカ十九紀ノ末尾ニ於テ

支那ハ國運危急ニ瀕シ一朝ニシテ極東平和ノ均勢ヲ破ラントス是レ早晩免ルヘカラサル數ナリト雖モ何人モ其急轉直下ノ變ニ驚カサルハアラス而シテ実ニ日清ノ戰役ハ全然如上ノ変勢ヲ促進シタルノ近因ナリキ而シテ実ニ之ヨリ極東一新局面ヲ開展スルニ至リヌ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

日清戦争ハ支那ノ無能ヲ暴露シ新極東ヲ開ク

アーサー、デイオレー八曰ク一八九四年九月十七日ノ日出ヨリ日暮ニ亘リ鴨緑江口ノ間ニ於テ轟然一發砲戦ノ聲天地ヲ震撼シタルモノハ実ニ新極東ノ開幕ナリト是レ彼カ極東問題ノ一轉進境ナリトシテニ年前ノ著作ニカ、ル「エー、イースト」、第一頁ニ於テ述フル所タリ故ニ両紀一八九四―五年ニ亘レル日清ノ戦役ハ実ニ極東ノ外交史政治史ニ一大畫ヲ画クモノト謂ハサルヘカラス日清ノ戦役ハ何故ニ斯ノ如ク極東ノ変局ヲ導クニ至リシヤ是レ多ク吾人ノ繁説ヲ要セサラン（スシ可ナ）日清ノ戦役ハ欧人ノ極東童鎮ヲ以テ見ル所ノ一大帝國ト欧人ノ或ハ其國名オタモ知ラサル一小島國トノ闘争ナリキ世人ハ皆戦ハサルニ先テ勝敗ノ數ヲ豫想シ寧ロ清警ニ類スルモノトナシタリ而モ其交戦ノ結果ハ我兵士ノ勇敢ナル而已ナラス實ニ勝怡モ疾風ノ枯葉ヲ掃フカ如ク清軍ノ旗色日ニ非ニシテ忽チニシテ日章旗ハ直隷湾頭ニ飜テントスルヲ見世人ハ再ヒ事ノ意外ナルニ驚キ狼狽錯愕殆ト其挙措ヲ失ハントセルモノ亦故ナキニアラス

日清ノ戦役ハ支那帝國武力、國力、民性ノ好箇試金

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

右ナリ千日清戦争ハ不幸ニシテ支那ノ無統一武備ノ不整頓ヲ世界ノ表ニ最モ明確ニ暴露シ悉ク自ラ中華ヲ以テ居リ極東ノ重鎮トシテ又中堅トシテ隠然黄人國ノ牛耳ヲ握リタル支那帝國ハ鼎ノ軽重速ニ問ハレ了シ此ニ全然一傀儡帝國ニ過キサル所以ノモノヲ表明シ今ハ眠獅ヲ以テ擬スルヨリモ寧ロ不治ノ病獅ヲ以テ目セントス則チ之ヨリ列國皆支那ヲ以テ與シ易シトナシ又昔日阿諛便倭ノ比ニアラス而シテ急速ナル事変ノ轉移ハ列國ヲシテ勢力ノ張弛ヲ来サシメスンハアラス或ハ急轉直下ノ勢ヲ利用シテ丙年ノ極東政策ヲ樹立スルモノアリ或ハ意表案外ノ変ヲ轉

蹟シ而年ノ極東経営ヲ反古ニスルモノアリ実ニ絶代ノ奇観ニシテ稀キ見ル所ノ紛乱タリ而モ東変ノ急速ナルニ驚キシニ於テハ列國共ニ一轍ナ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

○日清戦争ハ極東問題ヲ急轉セシメタリ而シテ其利害如何

英國ノ論客ヂプロマチカスハ曰ク今ヨリ四五年前（一八九八年ニ月公ニセル論文ニヨル）マテハ極東問題ハ是レ吾人刻下ノ緊急問題ニ非スシテ而モ吾人兒孫ノ爲ニ遺留セシムヘキ一未定問題トシテ之ヲ觀ルコトヲ得ヘカリシナリ是ヲ以テ四年以前ニ在テハ我英國ノ公衆大多數ハ極東問題ノ潛勢既ニ危急ナラントスルコトオモ夢想セス而モ彼ノロード、ローズベリー（ノ身當年自由党内閣ノ首相ニシテ一八九五年ニ在テモ尚ホ此問題ヲ觀破スル能ハスシテ單ニ之ヲ濛霧溟茫タル

林野ノ外ニ眺ムルー微影トシテ觀タリシノミ則チ僅ニ晦蒙タル未來ノ遠景中ニ隱伏セル所ノ一個影トシテ此問題ヲ睹タルニ過キサルオヤト豈是レ獨リ英國ノミナランヤ露、佛、獨、米モ今日本又夫局ニ應スルニ於テ頗ル狼狽セスンハアラス極東問題急轉直下ノ實局ニ際シ敏速事ヲ處シ漠然ノ利得ヲ占ムルニ躊躇セサリシモノハヲ露國トナス日清戰爭ニ於テ三國ノ下ノ關係勿ニテ渉ノ結果ハ露國ヲシテ專ラ支那ニ私恩ヲ售ラシメ露清ノ関係ハ之ヨリ頗ル親近シ来リ戰前ニ於ケル英國ノ位置ニ取テ代テントスルモノ、如ク獨、佛、

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

モ亦新勢力ノ樹立ニ勗メ極東ニ於ケル列國ノ位置形勢ハ爰ニ一大変化ヲ見ントス

余ハ今茲ニ日清戦役ニ對シ是非ノ論弁ヲ費ヤスヲ好マス是レ全ク相互ノ誤解ニ伴ヘル結果ニシテ強チ當年ノ政治家ヲ窮追スヘキモノニアラス時世ノ変自ラ然ラシメタルモノタルヲ知ルヘシ而シテ日本カ戦勝國當然ノ権利トシテ支那ノ領土タル遼東及臺膨ヲ獲得セントシタルモハ欧人ノ好ンテ論ヲナスモノカ支那領土不可侵的黙約ヲ破壊シタルモノトシテ難詰スル所タリ曰ク若シ然ラサリセハ一八九七年ニ於テ独逸カ其自國宣教師ニ名ノ虐殺ニ遭ヒタルノ些故ヲ以テ忽チ膠州湾ノ地域割譲ヲ逼ルヲ能ハサルヘシト何ナレハ彼往ニ於テ屢々之ヲ実行シ独逸ノ膠州湾ノ占奪ハ佛國ノ雲南着強洪祖借露國ノ旅大英國ノ威海衛租借ヲ見ルニ至リタルモノニシテ欧洲列強ノ支那ニ於ケル遷往突進ハ実ニ前代未聞ノモノタリ極東問題ハ是ニ於テ甚タ頗ル危急ニ瀕セルヤ明カナリ

日清戦争ハ極東危局ヲ導キタル直接原因タルハ論ナシ是ヲ以テ心スレモ日清戦争及當時ノ當局ヲ咎ムルハ酷ナリ支那ノ永久ニ傀儡タルヲ得サルハ利ノ最モ睹易キ所ニシテ日本之ト戦ハサレ

ハ他國ノ必ス戰フモノアラン而シテ偶々善隣輔車ノ國ト難ヲ構ヘタルハ危局ノ變ヲ甚シキハ至ラシメサリシヲ以テ察ロ極東ノ利益ナリシヤモ知ルヘカラス乃チ日本カ支那ノ頑冥ヲ打破シタルハ明カニ極東ノ利福ヲ促進スル所ニ又欧米人モ利福ニ浴スルコト一日ヲ早カラシメタルモノト云ハサルヘカラス故ニ日清戰爭ノ利害ニ就テハ固ヨリ俄ニ軒輊シ易カラサラン

(六)

○○○○○○○○新極東ニ於ケル○○○○○○○○新日本ノ興起

日清戰爭ハ支那ノ羸弱為ス所ニ足ラサルヲ暴露シ列強ノ突進ヲ見ルト共ニ日本帝國ノ勇武ヲ及証シ大平洋面ニ於ケル新強國ノ勃興ハ又世人ヲシテ肝膽ヲ冷カナラシメスンハアラス独逸ノ詩人ウオルハイムハ即チ極東新帝國ノ興起ハ欧人ヲシテ戰慄セシメタリト歌フ列國ノ日本ニ對スル戒慎ハ支那ニ對スル突進ト共ニ加ハラサルヘカラス日本ト支那ハ全然戰前戰後ニ於テ其位置ヲ轉換シ日本ハ新ニ黄人國ノ牛耳ヲ握リ極東東道ノ主人公タラサルヘカラス日本帝國ノ責務ハ極東事局ノ変ト共ニ一層ノ重キヲ致セリ日本果シ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

テ如何ニシテ極東問題ノ急
トスルヤ国家ノ前途誠ニ多望ナル益自重自愛ス
ル所ナカルヘカラス

(七)
日本外交ノ失敗
今日ノ難局
日清戦争ハ極東問題ヲ急転直下セシメタリ極東
問題ノ急迫ハ今日ノ日本ヲシテ頗ル難局ニ陥ラ
シメタリ日清戦争ハ洵ニ止ムヲナキニ出テタル天
下ノ義戦ナリト雖戦前及ヒ戦後ニ於ケル日本ノ
外交ハ果シテ機宜ノ妙ヲ制シタルヤ著者敢テ先
ツ此ノ点ハ一般国家運命ノ関繋スル史跡ニ就テハサ
レクモ卑見ヲ述ヘテ後ノ蹉躓ヲ戒メサルヘカラス
露国カ西比利鉄道ノ敷設ハ世界公共ノ大事業ニ
シテ其恩恵ハ三億七千余万留ニ上レリ露国タル
モノ之ヲ以テ世界公共ノ用ニ供スルニ勉ムルト共

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ニ其多額ノ経費ニ對スル賠償ヲ得ントスルハ當
然ノ希望ヨリ露國カ此希望ヲ滿足セシメントス
ルニハ彼ニ極東ニ於テ最終ノ
港ヲ與ヘテ彼ヲシテ軍事及貿易上海陸連絡ノ本
能ヲ全ウセシメサルヘカラス露國ノ此措畫ニ於
テ決シテ異心アルモノト見ルヘカラス頗ル平和
的ノ希望トシテ友邦ノ宜シク讓容スヘキヨトタ
リ露國ノ極東ニ於ケル関係
テ此上ノ如ク確立セリ露國
モ支那海勃海灣ニ良港ヲ得サルヘカラサルナリ
悲哉我國當年ノ外交當局者
カ他日ノ機會ヲ待テ讓與又
ハ相償ヲ得レトモ
タ

旅順大連一帶ノ
居セントシタリ是レ當然露國
ノニシテ露國ノ独立ヲ危クス
斷然タル決心ヲ以テ我ニ抗義
始メヨリ明察シ得カリシニ
ニ千歳拭フヘカラサルノ國辱ヲ忍ヒテ還遼ノ止
ムヲヤニ至ラシメタリ独リ而
ノ違束蛸居ノ意志ヲ示シタル
日ノ如ク急迫セシメタルモノ
ハ一大失徳ナリトス
今著者ヲシテ當年ノ外交當局者
露國東漸ノ大勢ニ鑑極東問題
ノ歸局ニ察シ露國

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ト一大妥協ニ出テントスヨ日本ノ兵勇カ鮮血ヲ注ヒテ得タル地トシテ戰勝ノ日本ハ遼東ノ割讓ヲ為サレメントスヽ其計畫シ而シテ再閧ノ後ノ如ク進行セシメソアル間ニ於テ若シ露政府ニ忝告セシメテ三ハントス欲ス日本ハ戰勝ノ結果トシテ遼東半島ヲ支那ヨリ割讓セシメレト欲スル然シ乍遼東ノ地タル將來貴國ノ西比利鐵道ヲ延長シ来ルヘキ要地タリ幣邦ハ貴國ノ此世界的事業ヲ滿足セレタル為ニ此際貴國ニ可及丈便宜ヲ與ヘントス欲ス貴國ハ隨テ又幣邦ヲシテ日本海ノ自衛ヲ全ウセシメタル為ニ幣邦ヲシテ日本海ノ制海權ヲ得セシメスヤト

斯ノ如ク露國政府ニ注意スルニ於テハ彼カ既ニ十數年来占領ニ意アツテ果サヽル滿洲ヲ次テ一擧日本ヨリ讓與セラルヽノ停意ヲ示サヽルヽニ感激シ日本ノ讓與ニ對スル交換トシテ日本海及オホーツク海ニ於ケル漁權ヲ永久ニ日本ニ與ヘントスルハ勿論沿海洲ノ一部ヲ割キ樺太一島浦塩斯徳オモ悦テ日本ニ割讓セントスヘシ而シテ當年ノ露ニ於テハ意外ナル日本ノ停意ニ依テ遼東ヲ得又鐵道ノ敷設權ヲ得ルニ於テハ日本海岸ノ壞土ヲ割クモ夫レテ惜ム所ニアラス露國ハ寧ロ之ヲ以テ一大成功トナセルナラン日本モ亦斯ノ

如クナレハ永久ニ北顧ノ患ナク朝鮮ノ如キハ之ハスレテ我手裏ニ在ラン然ルニ日本外交家ノ智能此ニ出テス漫然遼東ヲ奪フテ大陸ニ拠ラントスル如キ無謀ノ挙ニ出テタルヲ以テ列国ハ日本ニ乱心アリトシ露国ノ如キ其国土ノ自衛上沈黙スル能ハサルヲ以テ日本ノ感情ヲ害スルヲモ顧ミス愈違ヲ迫レリ是レ決シテ干渉ニ国殊ニ露国ノ罪悪ニ非スシテ日本外交家ノ不明ナリ罪悪ニ此ノ如キハ其国土ノ自衛上沈黙不明此罪悪ハ極東ヲ今日ノ危局ニ陥ラシメ支那ヲ亡ホシ朝鮮ヲ失ハントスル実ニ極東ノ一大危機ヲ醸シ然レ共今日尚ホ違レトセスヲ蔵一遇ノ危局ニ臨ミ外交ノ機宜ヲ誤ラサルヲ得ハ多望ナル大日本帝国ヲ興ス何カアラン戦役ニ於ケル対朝鮮清外交ノ失敗ノ如キハ今ヤ一々之ヲ窮迫セサルナリ今日支那問題ノ解決ニ望ミ急転直下シ来レル極東問題ヲシテ定全ナル帰結ヲ来サレメンコト蒼海ノ最モ希望ニ堪ヘサル所ト為ス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

第二章　晩近極東ニ於ケル列國ノ突進

"The fourth who daily farthor from the East must travel, still is nature's priest,
And by the Vision splendid
is on his way attended."

(一)　日清役中ニ於ケル列國ノ準備

日清戰爭未タ其局ヲ結ハサルニ於テ歐洲列國ハ既ニ支那ノ贏弱為スナキヲ看破スルト共ニ大ニ突進奮テ以テ利益ヲ獲取スル所ナカルヘカラス

ト決心頗ル熾盛ナルモノ、如シ英佛二國ノ如キ一八九四年ノ末ニ於テ既ニ早ク密約ヲ遂ケ各舟山島及雲南ニ援ラントシテ我國政府ニ豫メ交渉スル所アリ我國カ戰勝ノ結果トシテ獲得スル利益ニ均霑セントスルモノニ驚クヘキモノアリ露、独、未等ノ極東外交官亦各ニ慮セシトセサルハナシ既ニ迫ラントスルヲ見ルヤ外國ハ稍日本ニ先鞭ヲ附ケラレタルヲ遺憾トスルモノ、如ク自ラ猜疑ノ眼ヲ以テ我日本ヲ眺ムルノ観アリ之ヨリ列國ハ一齊ニ進テ北京政府ニテ渉ヲ始メ恩ヲ支那ニ售テ他日ノ報償ヲ得ントシ自ラ支那政府ヲ掩護スルノ態度ヲ取レリ

西紀一八九五年四月十七日下ノ関ニ於テ日清講和條約成テ敷日ヲ出テス露、仏、独三國ハ迅速耳ヲ掩フニ暇アラス同盟抗議ヲ我政府ニ致セリ曰ク日本ノ遼東半島ヲ占領スルハ支那ノ分割ヲ助長スルノミナラス北京ノ独立ヲ危クシ極東永遠ノ平和ニ害アリト我政府抗議ノ至當ナルヲ見三國ノ友情ヲ容レテ直ニ至尊還遼ノ詔トナリ其賠償トシテ六百万両ノ增額ヲ得償金完濟スルマテ威海衛ノ占領ヲナスニテ事局先ツ了セリ

想フニ三國ノ干渉ハ欧洲列強ニ於ケル外交上ノ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

一大成功ナリト見サルヘカラス一挙レテ我日本ヲ大陸ヨリ排斥スルヲ得タルハサクトモ全欧洲ノ利益ヲ保護セルモノナラサルヘカラス列国ハ斯ノ如クシテ我日本ノ戦勝ニ伴フ利得ヲ抑制シ他日ノ利益ヲ図ルト共ニ日本カ其講和條約ニ於テ特ニ蘇州、杭州、沙市、重慶等ノ新開港場ヲ得タルノ利益ニ均霑スルニ躊躇セス果ニ洽セリ之ヨリ英、独、米、ハ進テ専ラ貿易上ノ経営ニ急キ露、佛各干渉ノ功労ニ対シ支那ヨリ相當ノ特典報償ヲ得ント欲シ列国ハ著シク汚辱シ来リ極東ノ風雲轉タ急ナルヲ覚ヘサルヘカラス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

列強對清政局ノ風雲ノ瞬瞻ノ危機発セントシテ発セス

日清戦争ハ独リ支那ノ無能ナルコトヲ列國ニ暴露シタルノミナラス國力ノ削殺甚シク為ニ大ニ衰弱政令四境ニ行ハレサルヲ致ス列強豈ニ扶手シテ幸リニ此好機ヲ逸スルモノナランヤ日清ノ戦役ヲ去テ此ニ二ケ年極東ノ政局ハ表面ノ風波ヲ見サルモ暗流頻ニ下面ニ動キ轉タ悽愴ノ感ニ打タル、モノアリ英國ト米國ハ頗ル通商ノ擴張ニ熱中シ来リ佛國ハ南清ニ於テ領土及利得ノ擴張ヲ忽ニセス殊ニ想望スヘキモノハウイルヘルム(彼ハナリ)ニシテ世界第一等ノ海軍ヲ以テ自ラ誇リ新皇帝ノ幸ニシテ独逸

強國ニ列セントシテ既ニ亜弗利加、伯剌西ヲ以テ植民地トナシ年々繁殖ノ人口ヲ以テ更ニ工業生産ノ輸出場トシテ近時頻ニ進歩シタル独逸工業ノ利益ヲ収メントシ過大ノ希望ヲ懐テ極東ニ動キ初メヌ、露西亜ハ西比利鐵道ノ一端ヲ満州ニ置キ極東ニ艦隊ヲ繋クノ不凍港ヲ得サレハ固ヨリ止マサルヘシ列國相對峙シテ龍攘虎嘯ノ観アリ弥天地ノ活劇ヲ演セントス是ニ於テヤ佛國ノ著述家ハ曰ク日清戦争ハ列國ノ欲望ヲ逞クスルノ導火線トナルニ至レリト真ニ然リ

露國ハ戦後ニ於ケル清國ノ戡政紊乱ヲ知ルヲ以

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 305

テ極東政策ヲ此ニ樹立セントト欲シ清国ノ為ニ債
務者ノ位置ニ立テ益支那政府ニ恩ヲ售ラントシ
支那ヨリ我国ニ支拂フヘキ償金ハ之ヲ自国ニ於
テ引受クルニ決シ第一期償金五億萬法ノ如キ露
國之ヲ清國ニ供給シ初メテ露清銀行ノ設立ヲ見
ルニ至レリ露國ハ斯ノ如クシテ清廷ノ信用ヲ博
スルコト深ク國債擔保トシテ旅順口威海衛若ク
ハ山海関ヲ占領セントスルノ意ヲ遂レタリト
サヘ云ヘリ終ニ露國ハ一八九六年未ニ於テ所謂
「カレニー」條約ヲ結ヒ鐵道、礦山領土等ニ於テ最大
ノ利益ヲ得タリ（「カレニー」條約ハユトハ後章露
清支渉沿革ニ譲ル）干渉ニ國ノ一タル佛國又其
驥尾ニ附シテ得ヘキ所ヲ得テ敢テ剰スナレシ只独
逸ノミハ事サレク齟齬シ當時未タ充分ナル報酬
ヲ得タリト云フヘカラス是レ野心勃々六億万馬
克ノ製艦費ヲ議決セシメタル独帝ウイルヘルム
カ豈ニ黙シテ止ム所ナルヘケンヤ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

山東兗州府ノ虐殺―独逸ノ膠州灣占領

極東政局ノ爆裂彈ニ俄然一點ノ火ヲ通レタルモノニハ九七年十一月一日彼ノ山東省兗州府ニ於ケル独逸宣教師ニ名ノ虐殺トナス（遭難宣教師ハヒツリグレル）ニ民ニシテ佛國加特力宣教師一行ニ属ス独逸ハ其新聞ハ此報道ニ接シ激昂甚シク之ヲ以テ巡撫李秉衡ノ教民ニ出ツルモノトナセリ（是レ独逸ヶ偶々待チ構ヘタルノ事變ニシテ独逸ハ決シテ事變ヲ雲烟看過シ去ルモノニアラス當時独逸艦隊ノ頻ニ支那海ニ出没シタル所以ノモノハ上海及漢口ニ於ケル自国小数ノ僑人ヲ保護スルカ為ニ非スシテ実ニヘキノ擾隊アラハ則チ来セントシタルモノニ

ナリ是ヲ以テ今虐殺ノ報独逸ニ至ルヤ独帝怒髪天ヲ衝キ皇弟ハイリヒヲ以テ極東艦隊司令官ニ任シ北京ニ往テ損害ノ賠償ヲ要求スヘキ任ヲ與ヘ別ニ支那海ニ在ル戦艦ニ隻ニ命シ直ニ膠州灣ヲ占領セシメ地中海ニ在ル「デフリンガー」「トリタラン」等ヲ極東ニ向ハシメタリ皇帝ノ詔命ニ接スルヤ五六時ヲ出スシテ「カイゼルプリンツエスウイルヘルム」「コルモーラント」ノ二艦ハ舳艫相銜シテ膠州灣頭ニ顯ハレ忽チ陸戦隊ヲ来陸セシメ灣内ノ高臺ヲ占領シタリ次テ某副長ハ上陸シ清國守備隊長ニ通告ヲ移シ時間以内ニ撤退セシコトヲ迫レリ既ニシテ艦隊ハ砲門ヲ開キ守備兵ノ要求

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ニ應セサルニ於テハ一擧シテ粉齏セントセリ守
衛隊モ亦独逸軍ノ優勢ナルヲ見命ニ從フテ退去セリ是ニ於テ砲火ヲ
交フルニ至ラス独逸ハ容易ニ膠州湾ノ占領ヲ成
就シ独逸國旗ハ萬歳聲裡ニ湾頭ニ掲揚セラレヌ
後数日ニシテ北京駐劄独公使海靖(ハイキング)ハ恣理衙門ニ
逼リ再(其)ヒ要求ヲ提起スル所アリタリ
一、虐殺サレタル宣教師ノ為ニ紀念標ヲ建設ス
ルコト
二、遺難宣教師遺族ノモノニ贖金ヲ贈ルコト
三、遺難地タル山東ノ巡撫ヲ廃免スルコト
四、独逸軍ノ膠州湾占領ニ對スル失費ヲ支拂フコト

五、鐵道ノ布設及礦山ノ採掘ニ従事セル独逸技
師ノ事業ニ便宜ヲ與フルコト
恣理衙門ハ之ニ答ヘテ云ハク独逸軍カ膠州湾ヨ
リ撤退スルニアラサレハ何レノ要求モ之ヲ商議
スルコト能ハスト独公使復牒シテ去ハ既往ノ
経験ニヨルモ恣理衙門ノ約言ハ多ク倚信スルニ
足ラサルヲ以テ以上ノ要求ニシテ豫メ安物ヲ得
ルニ非レハ独逸ハ膠州湾ヨリ一兵ヲ撤スル能ハ
ス恣理衙門ハ頗ル其處分ニ窮シ五日ヲ過キス尚
未踐迹(誤)ス所アラス是ヲ以テ膠州湾ハ独逸軍
隊ノ一定区域ヲ限リ独逸政府ニテ民政

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ヲ発スヘキノ布告ヲ発セリ然ルニ山東巡撫ハ独逸ノ布告ヲ非理トナン其区域ヲ侵犯セルノ報北京ニ達スルヤ公使ハ厳キン（マヽ）ク其ハ総理衙門ニ上リ励聲一番巡撫ノ黙防ヲ通リ聞カレサルニ於テハ撲ヲ毫テ北京ヲ去ラントスルノ挙動ヲ示セリ衙門漸ク事態ノ容易ナラサルヲ見（マヽ）直ニ巡撫ヲ召還スルト共ニ膠州湾ヲ以テ五十年間独逸国ニ貸与スルノ議ヲ決セリ之ヲ一千八九八年三月六日ノ北京条約トス其要点左ノ如シ

独逸ハ九十九年ノ期限ニテ膠州湾内全域ノ貸与ヲ得湾ニ面シテ外方ニ在ル島嶼ヲモ之ニ含ム

独逸ノ撲定シタル地点ニシテ希望ノ条件ニ適セサル時ハ更ニ海岸ノ一地點ヲ撰擇シテ要求スルヲ得此場合ニ於テ膠州ニ建設シタル土地建物ヲ保有シ代價ヲ拂フヘシ

清國政府ハ山東巡撫ノ職ヲ免シ又官吏ヲ處罰シ三千兩ノ償金ヲ拂ヒ又賠償トシテ三個ノ禮拝堂ヲ建設ス

清國政府ハニ線ノ鐵道敷設権ヲ與ヘ線路ニ沿フ所ノ二十吉未以内ノ廣山ヲ占有シテ採掘スルノ権ヲ與フ

ルロアボリエ氏青テ云ヘルアリ佛國ハ東京ヲ以テ支那大滝ニ於ケル商業ノ門戸トナシ英國ハ香

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

途ヲ以テ商業ノ門戸トナシ露国
商ノ門戸ト為スカ如ク独逸モ亦
商ノ一門戸ヲ開カサルヘカラス
ノ擾ルヘキモノナクンハ独逸エ
乱シテ得ル所ナク却テ他人ノ口
ヘキナリ故ニ船舶ノ繋留場ヲ得
テ緊要トスル所ナリ三々独逸ハ
得テ商業ノ門戸ヲ開クノ運ニ至
レリ是レ支那邦
土上ニ於ケル列強勢力ノ均衡上至
只事ノ頗ル勿卒ニシテ簡宣教
テ我四国大、英蘭大ノ領土ヲ獲得シ
師遭ノ賠償トシ
タルヲ以テ要求
ノ過大ナルヲ難詰スルモノアリ
ト雖モ亦独逸

対極東政策上止ム能ハサルモノ
従来英国及ヒ仏國ノ宣教師ニシテ
モノ一ニシテ足ラスト雖モ此等ハ
加害者ノ處罰ニテ事済トナレル
国政府ノ委任事務官タリシマテ
青テ本國政府ノ用務ヲ帯ヒテ旅行中
ルモ英國ハ為ニ領土ノ分割ヲ要
キ然ルニ今独逸ハ斯ノ如キ一新
ヲ以テ列國ノ向後此轍ヲ踏ム
割ハ即チ一日ヲ早ムルモノトス
ノ欧強豈ニ扶ケテ独逸ノ暴挙ヲ傍観スルモノ
ナランヤ極東ノ危機乃チ動ケリ

（四）

旅大ニ於ケル露國ノ突進ノ列強ノ驚愕

独逸カ膠州灣ニ於ケル突進カ決シテ列強ノ看過スルヲ得サルモノニテ殊ニ露國ノ如キハ直接痛痒ヲ感スルコト大ナルヲ以テ事後一ケ月ヲ出テス果シテ活動ノ端緒ヲ開キ来シリ独逸ノ膠州灣ヲ占領スルニ當テヤ北京政府ハ急ニ露國ノ援助ヲ請ヒ其保護ヲ求メタリ是ニ於テヤ露國ハ独逸ノ強硬政畧ヲ和ケント欲シテ私ニ伯林政府ニ勧告スル所アリタルカ如ク又タ露帝頑トシテ動カス既ニシテ露帝ハ独逸ノ意志ノ存スル所ヲ看破シ自家利害ノ関係上傍観スルニ忍ヒサルヲ

以テ直ニ命ヲ西比利艦隊ニ與ヘ旅順口ノ占領ヲ急カシメタリ独逸カ膠州湾ヲ占領シタルハ実ニ十一月十四日ニシテ之ニ後ルヽコト三十四日即チ十二月十八日ヲ以テ露國海軍大将レヲヴィチモウ西比利艦隊ヲ率ヰテ旅順口ニ進入セリ露國ハ独逸ノ膠州湾占領ヲ黙過スルヲ得ス當然極東ニ於ケル勢力ノ均衡ヲ保ツカ為ニ旅順口ノ相借ヲ得サルヘカラス又他ノ独逸カ北京ヲ窺ヒ得サル(ゲレー)ヿ之ニ次勝打撃ヲ加フルニアラメンカ為ニ万一ヲ慮リ清國ヲ掩護スルト云フニ在リ蓋シ露國ノ黄海経営ニ志スヤ久シク既ニ早ク膠州湾ヲ無涉レタリ「カレニ」條約ノ如キ現ニ膠州湾ヲ

露國ニ與ヘヘキヲ規定セルモ露國ハ他ノ慾望ヲ遠ヒンカ為ニ今断然膠州湾ヲ抛棄シ独逸ノ占領ニ對シテ強テ無用ノ争ヲナサヽルモノナリ膠州ニ失ヒタルノ露國豈ニ易ソ旅順ヲ棄テンヤ故ニ北京政府ハ露國ノ要求ニ再三抗議ヲ提スト雖露國ノテヲ引カシムルニ由ナカリキ後遂ニ旅順大連ハ独逸カ膠州湾ヲ占領セルト同一條件及ヒ一期間ヲ以テ支那帝國ヨリ露國ニ貸與スルヿトヽナレリ此締約成リタルハ一八九八年五月二十五日ニシテ之ヲ条約全文左ノ如シ

千八百九十八年三月十五日ヲ以テ北京ニ於テ締結シタル條約ニ據リ清國

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ハ二十五年ヲ期限トシテ大連灣旅順口及之ニ
附屬スル土地領海ノ用益權ヲ露國ニ讓與ス但
シ此條項ハ毫モ此地ニ關スル清國ノ主權ヲ
損害スルコトナカルヘキヲ特約シ又ニ十五年
ノ期限ハ兩國ノ商議ヲ以テ後之ヲ延期スルコ
トヲ得ヘシ露國ハ自用ノ經費ヲ以テ此地ニ堡
壘兵營ヲ建設シ隨意ニ防禦ヲ編制スルノ權利
ヲ有ス
又此地ヨリ兩個利鐵道ヲ連絡スヘキ一線ノ鐵
道敷設權ヲ露國ニ讓與ス
露國ハ旅大ノ租借ニ依リ
ノ救設權ヲ得タルモノトス
對應シテ事實上滿洲
其ニ年前滿洲橫斷鐵道

統轄ヲ爲スニ至レリ一タヒ此新聞ノ泰改諸國ニ
傳唱セラルヽヤ其驚愕一方ナラス極東ニ於ケル
露國ノ政策ハ全ク支那ノ領土ヲ蚕食スルニ在リ
トシテ恐怖スルモノ極メテ多シ獨リ兩ノミナラ
ス露國ハ僅ニ二年前ニ於テ旅順口ヲ列國ノ其何
レニ於テ占領スルモ北京ノ獨立ヲ害スルモノナ
リトナシ又日本ノ之ニ擾ラントスルヤ抗議ヲ提シ
ナカラ今自ラ之ヲ進ンテ擾取セントスルハ前後
矛盾ノ擧動ナラスヤト議論頗ル沸騰セリ然レ共
露國カ旅大ニ據ル如キハ滿洲ニ於ケル自家既得
權ヲ完全ニスルカ爲當然必要ナルモノニシテ我
日本ノ之ニ據ラントスルカ如キ關係ニアラス況

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

シヤ今独逸ノ膠洲湾ニ擾ルニ於テヤ列強ハ露國ノ擧動ニ憚ラ(サ)ルニアラサルモ既ニ大勢之ヲ如何トモスル能ハサルヲ見露國ノ為ス所ニ放任シテ敢テ干預セス露國ハ自然、一兵ヲ用ヒスシテ北清ノ天然的領域ヲ獲得スルニ至ルヤ之ヲ想像スルニ難カラサルモノナリキ

(五)英國ノ狼狽

威海衛及九龍半島ハ割據

独逸ノ膠洲占領ニ反撥サレタルモノニシテ独逸ノ極東ニ於テ一大優勢ヲ占メタルニ英國ノ豈ニ黙シテ止ムヘキモノナルヘケンヤ独逸ハ英國ノ一大商敵ニシテ地盤ヲ堅メントスルモノハ英國ノ頗ル悦ハサル所トス況ンヤ英國ノ輿論ハ頗ル沸騰シ来リ三国干渉以来極東政策ニ於ケル英國ノ失敗ハ英國政府ノ夢事考タルモノニ此ノ如キ此事変ニ應シテ英國ハ英國ノ為ス所ナクシテ可ナランヤ

除為ス所ナクシテ可ナランスルカ為ス衆國政府ト提携シテ策ヲ樹ツルノ必

要ナルヲ認メ合衆國ニ意志ヲ通シテ北京ニ於ケル兩國商業上ノ利益及政策ハ連帶シテ之ヲ擁護スヘキヲ提議シ英國カ當時極東ニ於ケル露、佛、獨ノ新三國同盟カ支那ニ對シテ執ル所ノ政策ナリキ新三國同盟カ支那ニ於ケル英國商業ノ利益ヲ侵害シ世界ニ於ケル英國ノ勢力ヲ制スルカ如キ一ノ壁壘タラントスルヲ慮リ英國ノ外交官ハ彼等三國ヲ驚カサンカ爲ニ巧ミニ手腕ヲ揮ヒ三條ノ疑ヲ北京政府ニ結ハシメ時天ニ霹靂一聲ノ慨アラシメタリ

第一　支那内地ノ舟楫ヲ通スヘキ水路ハ東ル

六月（一八九七年）ヨリ英國及其他ノ船舶ハ流船ト否ハ

ニ通行ヲ許スヘシ其船舶ハ

ヲ向カス

第二　清國ハ揚子江流域ヲ中立地ト爲シ何レ

ノ國ニモ之ヲ貸與シ若クハ賣渡スコトナキヲ英國ニ對シテ

若クハ賣渡スコト

明約スルモノトス

第三　支那諸港ニ於ケル英國ノ貿易額カ何レ

ノ國ノ貿易額ニモ超過スル間ハ慈務稅

司ノ職務ハ英國臣民ノ特有權タルヘキ

丁

英國ハ今時ニ支那ヨリ日本ニ支拂フヘキ第二期

償金一億兩ノ新公債發行ハ香港ノ英吉利銀行及

独逸ノ一銀行共同擔當スヘキヤトヲ以テセリ後幾モナクシテ露國亦旅大ノ租借條約ヲ準更ニセルヲ見英國ノ輿論ハ再ヒ沸騰シ露國旅大占領ハ全ク滿州ヲ呑併シタルモノト同シク露國ハ漸次清國ノ全部ニ勢力ヲ及ホシ英國ノ商業ヲ駆逐スルニ至ルヘシトナシ坊間或ハ英露戦争ノ風評サヘ喧傳スルニ至リタルモ英國ハ露國ニ反抗スルノ労タクシテ功ナキヲ認メ※之ニ對應スル頓ニ獲ヲ計畫スルニ至リ即チ英國ハ新ニ新國政府ニ要求ヲ提起シテ曰ク独逸及露國ノ支那海ニ於テ新領土ヲ開拓スルハ独露ノ海軍ニ一大利益ヲ與フルモノニシテ極東ノ勢力均衡ヲ害スルコトヲ以テセリ後

甚シト是ニ於テヤ英國ハ威海衛ノ租借條約ヲ締結セリ當時ハモ威海衛ハ償金擔保トシテ日本軍ノ占領スル所タリシカハ後一八九八年五月ニ十四日本兵ノ撤退ヲ見ルト共ニ威海衛内陸十哩マテノ圏内及劉公島ヲ擧ケテ露國ノ旅順ニ於ケルト同一ノ期間ヲ以テ英兵ニ引渡セリ英國カ威海衛ノ割據一タルヤ英國在来ノ對ニセラルヽヤ失政ナリトシテ清政策上清ノ領土ヲ侵犯スルハ失費サナカラスヽヲ現狀ニ放任センカ殆ント非難スルモノアリ蓋シ威海衛ノ防備ヲ嚴ニスル軍港ノ用ヲナサヽル只僅ニ貯炭場タルニ過キサレハナリ

後南清ニ於テ佛國ノ新要求ヲ提起スルヲ見ルヤ英國ハ又自國殖民地ナル香港ノ自衛ヲ名トシテ九龍半島ノ租借ヲ得タリ其年限ハ九十九ケ年トス英國ハ然レ共終始清國ニ於ケル領土ノ獲得ヲ避クルヲ得策ナリトシ軟近義和團ノ事変ニ際シ露國ハ滿洲経営ニ專ラナルヲ見テ独逸ト協商ヲナシ領土ノ保全ヲ得テ自己ノ貿易上ノ利得ヲ全フセントスルモノヽ如シ這般ノ政策ニ関スルモ又次章ニ於テ之ヲ詳說セント欲ス

(六) 英人ハ元来深ク國國ノ海軍隊ヲ怖ル、モノニシテ殊ニ露國ノ海軍洗練ナル、モノナリ則チ彼ノ深ク怖ルヽ露國ト戰フヨトヲ忌ムヘシ又英國ト戰フニ止ラス佛人トハ演習ニ止ル露人トハ演習ニ止ラス佛人トハ戰闘スヘシ

英國ノ有名ナル詞客ハリソンノ言ニモ

十

一八六六年ノカシニ於ケル軍艦建築ノ用ヲ為サヽルカ為ニ膠洲ヲ占領一天若痛故ニ露國ニ取ラハ独リ露國ノ内湖ノ如キ清國ヨリ十五年借入ルヽ膠洲湾ハ独逸ノ勝手ナリ(第四章第一節参看)

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 305

(六)

佛國ノ廣州灣割據　南清ノ經營

佛國ハ露獨ト共ニ日清戰爭ニ干渉シ後又清國公債ノ募集ニ應シテ清國ノ爲ニ盡ス所頗ル多シ隨テ其報償ヲ得ン所ナカルヘカラス戰後佛國ノ外務大臣ハ清國ト談判ヲ開始シ多年決セサリシ支那東京向ノ疆界ヲ確定シ其疆域ニ五ル清國ノ四府ハ佛國人ノ通商ヲ聞クニ佚シ佛國殖民地ヲ通過ス清國商品ノ開税ヲ免シ國境地方礦山採掘ノ權ヲ佛國ニ與ヘタリ佛國ハ又鐵道敷設ノ特權ヲ得ル個ノ新領事館ヲ開ケリ其他ミラールノ一八大五年ノ旧條約ヲ履行スルニ決シ加特力宣教師ハ清國ノ内地ニ於テ當然不動産及ヒ土地ノ所有

ヲナスノ権利ヲ有シ病院
学校等ヲ建設シテ教徒
ノ便ヲ計ルコトヲ約セリ
以来佛國ハ南清ノ経営ヲ
忽諸ニ附セス或ハ商人
ヲ派シテ雲南、廣西、廣東地
方ヲ視察セシメ或ハ水
路測量委員ヲ派遣シテ上
流公河ヲ調査セシムル
等他日ノ準備ヲ怠ラス、偶
マ遺憾ニ堪ヘサルハ又傍観スル
能ハス、提起シ北京廷ニ迫ヲ
大臣アリトハ次ノ要求
シメタリ北京廷此要求ヲ
容レタルヲ一ハ九八年
四月五日トス
第一 東京ト境ヲ接ス
ル三省即チ雲南、廣西、廣
東及海南本島ハ何レノ國ニモ譲與セサ
ルヘキ明約ヲナスコト
第二 独逸ノ膠州ヲ備ヘ
ヲ以テ海南島ノ
近傍當州半島ノ東岸廣
州灣ヲ貸與スル
第三 滿洲鐵道ト同一ノ條件ヲ以テ列カイ
雲南、府間ノ鐵道敷設権ヲ佛國ニ譲與シ
且ツ雲南内礦山採掘ノ特許ヲ佛國ニ
與フルコト
第四 清國政府ハ國内ノ郵便事務長官ニハ必
ス佛國人ヲ撰任スヘキ契約ヲ為スコト
佛國ハ斯ノ如クシテ西江流域及海南島ニ於ケル
佛國勢力ヲ樹立シ雲南ニ於ケル佛國ノ商工業ヲ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

確保シ南清ノ経営ニ一歩ヲ進メタリ後海南事件ノ起ルニ際シ佛國ハ自國殖民地ノ自衛上清國政府ニ迫リ該島占領ヲ認諾セシメタリ之ヲ一八九八年四月五日トス海南事件後幾モナク廣西省ニ於テ加特力教ノ宣教師ベルトレー等ノ遭難事件アリ佛國政府ハ此報ニ接スルト共ニ東京経営ノ時機来ルモノトナシ北京ニ臨検該刊ヲ開キ犯人ハ之ヲ捕ヘテ處刑シ當局官吏ヲ罰シ十萬法ノ償金ヲ拂ヒ紀念トシテ礼拝堂ヲ建設シ東京湾内ヨリ南寧府ノ間ニ通スル鐵道ノ敷設権等ノ譲與ヲ得タリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

○支那内地ニ於ケル列國鐵道敷設ノ權ノ獲得

欧強列國ハ独逸カ膠州湾ノ占領後誠ニ六ケ月ヲ出テスシテ各支那海岸ニ於テ根據地ヲ占奪シ一ノ事変アル毎ニ相競フテ特権ヲ擴充シ一歩ヲ進メ列國ラレハ乙一歩ヲ進メ列國得隴望蜀ノ欲タル厭虎ノ飽クヲ知ラサルカ如ク極東ノ大帝國土崩瓦壊シ了ヒスンハ止マサルモノノ如キ観アリ誠ニ前代未聞ノ乱局トス多年支那ニ放資ヲ企テタル各國ノ資本家ハ此機逸スヘカラストナシ各其特権ヲ得ンコトヲ相競争スルノ奇観ヲ呈シ来リ既ニシテ礦山ノ採掘、油井汲取、鐵道敷設、工業、建築等ハ各國公使ノ要求ニ従テ漸次各國民ノ権利ニ移サレ又ソ血誌、湖南、陝西、雲南ノ有名ナル礦山ニシテ各國民ノ採掘権ヲ得サル(採掘権ヲ得タルモノナシ殊ニ鐵道計畫ニ至テハ外人ノ得タル特権甚タ大ニシテ清國ノ運命ニ他ノ至大ノ関係ヲ及ホスヘキモノタルヘシ」

鐵道敷設ノ特権ハ初メ白耳義「シンヂケート」ニ許與セラレタリ露、佛二國ハ東面ニ之ヲ援助シ成功セシメントスルヤ英國ハ自己鐵道計畫ニ阻礙ヲ来シ他國ノ先鞭ヲ着ケルヲ遺憾トシ駐清英公使ハ頻ニロバートソン、ハートン等ト周旋ノ労ヲ分チ英國手来ノ希望タル緬甸ト支那内地ニ通商ノ便ヲ通スル鐵道敷設ノ時機熟セリトナシ北

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 305

京政府ニ要求スル所アリ露國モ亦鐵道敷設計畫ヲ立テ、英
迫レリ清国ニハ従来京津鐵道
ト称スルアルノミナリシニ今ヤ各国
国土ニ蜘蛛ノ網ヲ張レルノ観ア
ル実家ハ云ハヾ當時支那ニ於ケ
ル究然英国ハドツソン王ノ時ニ
各国ニ許與シタル鐵道線ノ主
ハ実ニ次ノ如シ
露国（一八五三哩）西比利鐵道ヲ延長シテ満洲
セシムル線（満洲鐵道ヲ経過セ
ス北京ヨリ牛荘奉天ニ通
ス）山海関鐵道（満洲鐵道ヲ萬里ノ長城ニ至ル
線）（一八〇〇哩）
向耳義（大五〇哩）
北京及漢口ヲ接續スル幹線
（蘆漢鐵道）（此線路ハ表面向耳義「シンジケート」ニ許
シタルモ露清銀行ハ資本運轉
ノ責ニ任スルモノニテ露、佛、
白三国ノ共同事業ト見ルヘ
シ）
（三〇〇哩）
合衆國
漢口武昌ヨリ廣東ニ出ツル

線路（漢廣鐵道）ト此線路ト
蘆漢鐵道ニ依リ支那ヲ北部
ヨリ南部ニ十八省ヲ貫通ス」

佛蘭西（四二〇哩）

海防（ハイポン）ヨリ雲南府ニ至ル線路
（紅河鐵道）安南河内ヨリ
南寧（ナンニン）及北海（ポクハイ）ニ至ル線路（河
内鐵道）正定（チンテイン）ヨリ蘆漢線ニ
接續スル線（山西鐵道）

獨逸（七二〇哩）

膠洲ヨリ濟南府ニ至ル線路
及膠洲灣ヨリ沂洲（イチアウ）府ニ至ル
線路（山東鐵道）

英吉利（二八〇四哩）

天津ヨリ鎮江（チンキヤン）ニ至ル線路（津

鎮鐵道）寧波ヨリ上海ニ至
ル線路（寧海鐵道）上海ヨ
リ南京ニ至ル線路（海南鐵
道）九龍ヨリ廣東、梧洲（スチヨウ）、新津（スチヨンツ）
ニ至ル線路（緬甸
境上ノ崑崙（クロンフエリ）關ヨリ雲南及重
慶ニ至ル線路（緬甸鐵道延
長線）南京ヨリ漢口ニ至ル
線路（粵漢鐵道）太原府ト陝西
ノ首府西安府ノ間ニ至ル線
路（陝西鐵道）（此線路ハ
英伊合同ノ「シンジケート」ニ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

テ敷設ス

以上ハ実ニ一八九八年北京滞留衛門カ各國ノ請求ヲ容レ再三調査ノ末許可ニ確定シタルモノトスル中ニハ数年ヲ出スレテ竣エスヘキモノアリト雖モ之ヲ速ニ着手スルコトナクシテ止ム所ノモノモ之アラン

(八)

○韓山ノ風雲ハ○○○

朝鮮ヲ以テ両国共同保護ノ下ニ置キ周除上對等ノ権利ヲ得テ均勢ヲ保維セントセリ然ルニ其後ニ於ケル露國ノ作為ハ着々朝鮮ノ内政ニ干與シ来リ露國ハ或ハ陸軍士官ヲ送リ或ハ財務ヲ指導シ着々ラントセリ是ニ於テ外交官ハ陰ニ謀ル所アリ朝鮮政府ヲシテ強硬ノ手段ニ出デシメ幸ニ露國ノ干渉甚シキニ至ラサラシメタリ然レトモ機警ナル露國ハ外交官ハ何時如何ナル計畫ヲナサンヤモ計ラレサルニヨリ一八九八年四月ヲ以テ日露両國議定書ヲ締結シ朝鮮ニ對シ當ニ両國ハ守ルヘキ態度ヲ定メタリ其意味次ノ如シ

一日露両國政府ハ相共ニ朝鮮ノ主權及全然独立ヲ認定シ此國ノ内政ニ全ク干渉スルコトナカルヘシ若シ干渉ヲ要スルル時ハ両國ノ協議ヲ経サルヘカラス又露國政府ハ朝鮮ニ於ケル日本ノ商工業ノ発達ヲ妨碍セサルヘシ

日本ノ朝鮮ニ於ケル態度ハ独立扶植ヲ旨トシ外國モ亦之ヲ認メ朝鮮向與ハ甚シク世人ノ視線ヲ惹クニ至ラサルニ於テ先ツ支那向與ハ焦眉ノ急ニ瀕セリ日本ノ支那ニ對スルヤ又朝鮮ニ於ケル全ク終始領土ノ保全ヲ呼號シ来レルモノニシテ戦後臺湾ヲ譲與セシメテヨリ専ラ清ノ自覺開進ヲ傍観シタリ然ルニ日本ノ大陸劃據ヲ拒ミ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

メル狂逸ハ其古根末メ乾カサル＝俄然膠洲湾ニ
擾リ又露西亜ハ一メセ日本ニ漫附ヲ迫リメルト
同一ノ地ニ割據セントスルヲ見テ日本政府ハ断
カ不遜ナラサルニアラストモ之ニ抗議スルト已
ムコク支那大陸割據スルト両ナカラ国家ノ長
計ニ非ス故ニ我政府ハ只黙過スルノミ當時威海
衛ニ駐屯セル軍隊オモ些ノ故障ヲ鳴ヘス英国ノ
要求スルカ儘ニ期限至ルト共ニ之ヲ撤セリ然レ
ニ以来極東ニ於ケル各國ノ突進ハ愈ル危激ニシ
テ支那分割ノ形勢ヲ馴致シメルヲ以テ今ハ漫然
着過スルニ忍ヒストナシ新領土膠湾ノ自衛上一
小海膤ヲ開ク(對岸)ル福建省ノ地ヲ保護スルノ必要生

シ列國ノ勢範政策ニ擬シ北京朝ニ強硬ナル談判
ヲナサシメ各種経済上ノ利益ヲ得ルト共ニ清国
ヲシテ福建省不割讓ノ誓約ヲナサシメタリ(むう)我日本
ハ之ヲ外ニシテハ支那ニ向テ何等ノ要求ヲナサ
ス蓋シ日本ハ極東平和責任著大ナル帝國トシテ
自重ノ態度ヲ取ルヘキノ時運ニ際會シタレハナ
リ一波去ツテ一波来ル今ヤ北京朝ハ南方ニ於テ此律賓島ヲ占有スルニ至リ極東
ノ時局ハ弥(今)々(し)表リ(ん)日本帝國ノ新眠ヲ許サス

日清戦争ハ台湾ノ割譲ト遼東ノ還附トヲ以テ終局ヲ告ケタリト雖モ列国ノ東洋ニ於ケル勢力ノ均衡ハ為メニ一大変動ヲ来シ列国ハ各自ニ利益線ノ名ノ下ニ勢力範囲ヲ拡張スルニ汲々タリシカ中ニ就キ露国ハ満洲ヲ占領シ更ニ朝鮮ニ手ヲ伸ハシ遂ニ旅大ヲ租借地トシ東清鉄道ノ敷設権ヲ得テ東洋ニ於ケル優勝ノ地位ヲ占メ英国ハ之ニ対抗スル為メ威海衛ヲ租借シ独逸ハ膠州湾ヲ占領シ且ツ山東鉄道ノ敷設権ヲ得テ勢力範囲ヲ拡張シ仏国ハ広東湾ヲ租借シ且ツ雲南ヨリ安南ニ至ル鉄道ノ敷設権ヲ得テ勢力範囲ヲ拡張シ日本ハ福建ヲ以テ勢力範囲ト為シ且ツ南清ニ対シ鉄道敷設権ヲ得ントシ各

ヲ署シ印ヲ鈐シ上諭シテ曰ク光緒帝煬畏ノ詔ハ一切之ヲ廃棄スヘシト次テ帝ノ政策ニ参盡シタル張蔭桓以下華進主義ノ各員ハ官人ハ國賊ノ名ヲ以テ悉ク滴處罰スル所トナリ華進派ノ領袖々リシ康有為ハ即チ此時ヲ以テ上海ニ逃亡スルアリ北京ノ乱派想望スヘク各國ノ公使ハ災禍ヲ蒙ランコトヲ恐レテ公館保護ノ為ニ守衛隊ノ派遣ヲ各其本國政府ニ要求セントス統理衙門ハ一度ハ之ヲ拒ミタルモ後遂ニ認諾ヲ與ヘ英、仏、独、露等ノ守衛兵ハ其ノ月七日北京ニ入レリ

西太皇ハ廃上諭ヲ發シ萬政復古ヲ唱ヘ清國内ノ新聞紙ヲ抑壓スル等暴政ノ端發シ道路又光緒帝ハ西太皇ノ為メニ毒殺セラレタリトスフモノアリ

列國公使ハ益守衛ヲ嚴ニシ太皇(簪皇)狼狽仏公使館附ノ居ニ入ラシメ皇帝ハ健康ヲ診察(按)セシメ或ハ列國公使夫人令嬢ヲ宮中ニ招キ寺西方事変ノ傷痍ヲ慰問シ西太后ハ只(空シク)盛器ヲ擁スルノミ而シテ帝ノ幸進政策ハ西太皇ノ妨クル所トナツテ遂ニ果サス北京ハ一先ツ静穏ニ帰セリ知ラス此ノ間ノ消息ハ畢竟北京政府ニ於ケル英露勢力ノ衝突ナリキ支那ニ於ケル英露ノ角逐ハ之ヨリ前日ニ見ルヘキモノアラントス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

一八九八年ハ露國カ滿洲鐵道ノ敷設工事及遼東半島ノ防備ニ全カヲ注キタルヲ以テ自己勢力版圖ト認メ之ヨリ大ニ進ンテ鴨翼ヲ南方ニ張ラントスルモノナリ然ルニ香港及上海銀行ハ「シンヂケート」ヲ組織シ北京ヨリ牛莊奉天ニ通スヘキ山海関鐵道敷設ノ許可ヲ得タル人報アリ露國カ政治上軍事上又商業上ニ衆ル影響大ナルヤ知ルヘシ是レ豈ニ露國ノ黙過スヘキ所ナランヤ露國ハ即チ「カシニ」條約ニ依テ得タル權利ヲ主張シ山海関鐵道ノ敷設ハ慥然露國銀行ヨリ放資スヘキモノトナシ一面英國政府ニ故障ヲ申出テタリ

一八九八年八月（廿一日）徐理衙門ハ英國公使ク（ラ）ラドマクドナルト屢談アリシニモ拘ハラス山海関鐵ノ資本ニ関シテ全然露國ノ要求ヲ容レ同國公使ノ提出シタル條件ニ應ク認諾ヲ與ヘタリ依テ英露ニ國ハ納ミスレハ他ノ形勢ナリシカ英國政府竟ニ讓歩シ此ニ所謂英露協商ナルモノヽ発表ヲ見タリ是レ一八九九年四月ニシテ該協商ニ依リ英國ハ向後一切長城以北ノ鐵道敷設權ヲ要求セサルコト同様ニ露國ハ揚子江流域ノ企業ヲ英國ニ一任スルコト、ナセリ之ニ依テ一先ツ英露ノ衝突ヲ避ケ得タルモ陰ニ盧漢鐵道ノ如キ露國ハ陰ニ持株ヲ有スルヲ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

以テ見ル時ハ早晩更ニ利害ノ衝突ハ免レサルヘシ

(中)

○○○○列國突進ノ○○○○反動ニ義和團亜昨一九〇〇年一月光緒帝ハ突然其位ヲ去ルヘシトノ上諭ヲ發シ再ヒ北京ノ耳目ヲ驚セリ又以テ北京ノ官廷ニ瞞流洶湧シ章知ルヘシ而太皇カ機宜ノ策ヲ以テ其間ノ不和ヲ補綴シテ事ナキヲ得タリト雖モ米國内ニ於ケル猿派ト進取派ハ両々疾視及目シテ暗雲容易ニ晴レス早晩一大破裂ヲ見スンハ止マサルナリ

列強ノ租借又ハ蚕食シタル領土ハ過去五十年来誠ニサヽニ非ス露國ハ滿洲ヲ外ニシテ八十八万八千八百三十平方哩早晩滿洲ノ三十六万二千三百十平方哩モ之ニ加フヘケレハ其餘分割面積タ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

八佛、独、澳、匈及西比牙ヲ合シタルモノニ相當スヘシ之ニ次クモノハ佛國ニシテ其分割面積三十一万五千二百五十平方哩実ニ独逸及澳太利ヲ合シタルモノヨリモ大ナリ之ニ次テ香港威海衛ヲ合シテ五百五十万哩トス斯ノ如クシテ支那ノ地図ハ過去半世紀ノ間ニ恩三分ノ一ヲ収縮セラレメタルモノナルヘク支那人ノ無頓着ヲ以テスルモ列強ノ為ス所ヲ見テ多ク悪感ニ満タサレスンハアラス最近義和團ノ騒乱ハ実ニ此等積年ノ排外思想カ一時ニ暴裂シタルモノニシテ義和團ハ今ヨリ百年前則チ嘉慶年度ニ於テ四川、陝西、湖北、地方ニ蜂起シタルト白蓮教匪ノ支流遺孽ニシテ大部分ハ部禽ト部禽等ト相混シ興清滅洋ヲ名トシテ去ル一九〇〇年二月以来漸ク不穏ノ情ヲ呈シ五月ニ入リ竟ニ進テ蘆漢鉄道教會堂及教徒等ヲ破壊惨殺シ停車場等ヲ焼キ横暴至ラサルナシ是ヨリ先キ列國公使ハ秩ヲ聯テ総理衙門ニ迫リ速カニ匪徒ヲ剿討鎮定シテ以テ外國人ノ生命財産ヲ保護スヘキヲ全フスヘキヲ切論鉄道電信等ノ保護ヲ要求スト雖北京政府ハ踧踖躊躇之ヲ実行セス列國公使再三勧告シ同月二十八日ヲ以テ決答ヲ促スニ、セリ決答ナキニ於テハ各國公使ハ各國軍艦ヨリ直ニ其陸戦隊ヲ上陸セシメ以テ北京ニ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

進入セシムヘキ旨ヲ通シ又リ然ルニ期日ニ至テ
雁徒ノ暴動ハ北京ニ近カントセルヲ以テ各国公
使ハ復ヒ會議ヲ開キ決答ヲ待タスシテ兵竟ヲ上
陸セシムヘキコトヲ総理衙門ニ通知セリ然ルニ
衙門ハ尚ホ自國兵カニテ鎮壓スヘキノ至情ナル
ヲ口実トシテ容易ニ允許セス斯ノ如キニト再ニ
漸クミナ一月列國兵ノ入京ヲ許シタルヲ以テ日
英、米、佛、独、墺、伊ノ兵無慮二百餘名ハ相次テ北京ニ
入リ来レリ
一説ニヨレハ義和團雁ノ起レル端緒ハ竟ニ北京迄ニ
於テ仇端郡王等一輩ノ排外主義者陰ニ之ヲ教唆
スル所アリタルモノニテ前山東巡撫毓賢等之ニ
與スル所アリタルカ為ナリト或ハ為ニ殊更ニ列国
兵ノ入京ヲ遅延セシメ筆態容易ナラサルニ至レ
ルカ以来北京政府ハ果シテ雁徒ニ對シテ庇護ノ
態度ヲ取リ之ヲ以テ忠君愛國ノ義民ナリト称シ
今年六月初ノ上諭ノ之ヲ鼓舞シテ憚ラサルノ奇
態ヲ演セリ
既ニシテ北京天津間ノ通信根絶シタルヲ以テ北
京ハ弥危急ニ陥リ太沽沖ニ於ケル列國軍艦ノ先
任将校議ヲ舎レ其結果シリアハ即チ二千ノ
兵ヲ辛シテ天津出發北京ニ赴ケリ然ルニ北京ニ
於テハ既ニ我公使館ノ杉山書記生ノ慘禍ヲツト
レル公使ノ横死等ノ事アリ官兵拳匪ト共ニ外人

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

又抗スルノ情明カナルヲ以テ太沽砲台ノ攻撃トナリ列國ノ增兵トナリシヲ以テ之ヨリ天津包圍攻撃ノ快擧下リ北京救援ノ軍ハ破竹ノ勢ヲ以テ進メリ之ヲ八月四日トナス後十五日始メテ北京ノ中ニ救ヘリ鎭ヲ全フシ公使以下ヲ九死ノ中ニ救ヘリ之ヨリ先キ清帝ハ聯合軍ノ北進ヲ慮リ李鴻章ヲ促シテ急速北上セシメ直ニ休戰講和ノ訣判ヲ開始セシメントセリ或ハ是レ清廷カ列國離間ノ策タリシヤモ知ルベカラスト雖モ又以テ時局ノ結尾ニ近ケルヲ知ルベシ

北京ノ陥落ニ先チ北京ノ皇室ハ難ヲ避ケテ山西省大原府ニ蒙塵シ後西安ニ移レリ慶親王及李鴻章ハ止ヲ得サルニ及ヒ元兇ノ處罰ヲ要求ヲ容ルヽノ止ヲ得サルニ及ヒ元兇ノ處罰ヲ

章ハ上諭ニ依リ講和大臣ニ任シ始メテ関係ヲ有スル各國ノ使臣ト講和ノ會議ヲ開カントスルニ至レリ此時ニ當リ露國ハ北京撤兵ノ議ヲ提シ獨逸ハワルデルゼー元帥ノ聯合軍總指揮官タルノ認諾ヲ求メ各國ノ同多ク政策ノ齟齬ヲキニシモアラサレトモ作戰計畫ハ一般落ヲ告ケ十月八日始メテ第一回ノ使臣會議ヲ開キ十二ケ條ノ議定ヲナシ同年未之ヲ清國全權ニ移シタリ中ニ露清密約ノ風説アリシ如キ英獨ニ國ハ對清政策上領土ノ分割ヲ行ハレ英獨ニ國ハ對清政策上領土ノ分割ヲ計シ列國又之ニ不利ナリト認メ所謂英獨協商ヲ計シ列國又之ニ承認ヲ與ヘタリ清廷ハ再ヒ穿議ノ末遂ニ列國ノ要求ヲ容レ、ノ止ヲ得サルニ及ヒ元兇ノ處罰ヲ

為スニ決シ今ヤ償金ノ仕拂方法等ノ講究中ニ在リ清國全權及列國使臣ハ善後ノ策ヲ爲スニ孜々タレハ事変ノ落着モ亦遠カラサラン而シテ滿洲ハ露國カ單獨經營ヲナサントスルモノヽ如ク列國或ハ之ヲ成行ニ放任スルノ止ヲ得サルニ至ラン

第三章　欧米列國ノ對清政策

Crane Motion of Majestic Wings

From Alaska to Gaping Gulf Lake,
Why, god-like, grasp the Eagle tribe,
And King-like, wears the crown.
Tennyson.

(一)　英國ノ對清政策如何

英國ハ亜細亜ニ於テ既ニ百八十二万七千二百三十四平方哩ノ領土ヲ有スル而シテ英國政府ハ今ヤ世界各所ニ散在セルモノヽ領土ヲ統一スルニ急

ニシテ亜細亜ニ於ケル領土ノ
張スルハ英國今日ノ立場ニ於
テヌ故ニ支那ニ於テモ何等鎖
セス專ラ支那内地ノ商路ヲ開
ヲ擴張スルニ在ルノミ是レ一
カ廣東港ニ始メテ商品ノ陸揚
於始ニ一貫セル希望ナリトス
然シテ英國ノ政治家カ常ニ
ケル英國勢力ノ浮沈ハ全ク世
力消長ヲ試驗スルノ好箇試金
ハ決シテ對清政策ヲ怠ニセス
共ニ一朝事アルトキハ攻守同
盟ヲ計セシメ支那

ノ兵馬ノ権ヲ収メントセリ嘗テパーマーストン
卿カ英國ノ外務大臣タリシ時支那ニ對シテ強硬
威壓ノ政畧ヲ把持シ所謂 Britannia's Rule the Waves
La negotiation de Chine ne dépend que de Canon (支那ニ於ケル交渉ハ只砲艦ニ依ルノミ)ヲ
ナシ一八三九年香港ノ譲與ヲ
ハ砲撃ヲナセシコト等アリシ
國民ヲシテ不慮ノ難ヲ避ケシ
ヲ第ニノ卿同ヲ得セシムル
ナラス之ヨリ以テ決シテ顧
ハスルノ計畫アリシモノニア
来迄ニ四十年英國ハ更ニ支那
ヲナサントセル形跡ナキヲ以
テ知ルヘキナリ

パークマーストン卿ハ後又佛國ヲ操縦シ同盟軍ヲ起サシメ北京ヲ陥レタリト雖モ其目的タル清國ノ頑冥ヲ打破スルニ在リタルヲ以テ清廷膺懲ノ効果ヲ見ルヤ忽チ之ト和親結托シ兵事上貿易上ノ利得ヲ独占セントシテエルギン公使ヲシテ専ラ懐柔政策ヲ施サシメタリキ故ニ支那ヲシテ城下ノ警ヲナサシメタルモ其要求スル所ハ唯タ互市場ノ新開及ヒ償金等ニ過キサリキ是ヲ以テ以来三十年英ノ對清政策タルヤ専ラ清廷ヲシテ英ノ信頼スル支那扶翼ノ外ニ出テス而シテ清廷ヲシテ英ノ信頼スヘキヲ思ハシムル清廷亦英ノ厚意ヲ了シ毫モ嫌忌ノ跡ナシ英國ハ其長髪賊ノ乱アルヤ之ヲ討平スルニ備スルニ陸軍ヲ以テセス海軍ヲ以テシ関税事務ヲ整理スルカ為ニ備スニハートハートヲ以テシ海軍建設ノ為ニランダヲ備ヘシメ外務顧問ニマツカルトチーヲ備セルカ如キ最モ顕着ナル例跡ナリ英國ハ斯ノ如クシテ支那ヲ自己ノ藥籠中ノモノトナシ而シテ其實ハ清國ヲ扶翼シ一朝事アラハ敢テ之ヲ他國ノ蹂躙ニ委子サラントセリ

日清戦争ノ結末ヲ告クルヤ清國ノ実力如何ニ就テハ列國ト倶ニ英國モ之ヲ誤解セルモノニテアリキ清國ヲ扶翼スルモ其覺醒覇起ノ日待ツヘカラス到底兵器上之ト結托スルニ足ラサル

コトヲ悟リ英國ノ對清政策ハ之ヨリ變化ヲ見サルヘカラス當時バーレットカーゾンノ諸氏ハ、頻ニ支那ヲ以テ頼ムニ足ラサルアリ所謂黄禍説ノ消却ト共ニ英國ノ國論ハ一轉回ヲ見タリ英國ハ支那ニ於ケル貿易上ノ利益ヲ捨ツヘカラス是ヲ以テ支那ノ兵事上結托スルニ足ラストスルモ支那ノ顧土ヲ列國ノ間ニ分割スル如キハ英國ノ貿易圏ヲ減縮スルモノニヨリ依テ兵事上ハ本ト一八九三年以来ヒツ(オープン、ドーア)ケ、ポリシー門戸開放政策ヲ實行スルノ時機熟セリトナセリ近年ヤールス

ベレスフオード卿ノ清國貿易視察旅行ニ於ケル觀察モ日、英、米三國同盟ノ力ニ由テ露佛二強ニ當リ清國商業門戸ヲ開放シテ世界ノ市場トナサントスルニ在リキ然レ共此等ノ政策タル皆サリスバリーノ現内閣ニ於テ取ラサルコト、ナレリ英國ハ今日支那ニ絶對勢力ヲ有セス列國ノ勢力殊ニ英露國カ滿洲ニ擴リ独逸カ山東ニ拠ルニ當テハ現実ニ門戸政策ハ破壊サレアルナリ英國ハ故ニ今日尚ホ実行ニ難キ門戸政策ノ上ニ立ツトキハ遂ニハ英國ハ全然支那顧土ヨリ駆逐セラレンヨリ若カス今日ニ於テ勢範ニ倣ハスンハアラス是レ蛇蜂取ラスニ終ルモノナリ是レバ

ルフオーアカ 近々利益圏（スファーア、オブ、インテレスト）政説ヲ新ニ喝導セシ所以ニシテ英國政府亦此方針ニ從テ歩ヲ支那ノ保全ヨリ自國ノ利益ヲ保全セントスルニ至レリ之レ且ツ自國ノ利益ヲ保全ヨリ英國ハ此政策ヲ実行シ護スル為ニハ支那ヨリ領土ノ獲得オモ敢テスルニ至レリ

一八九八年英國カ威海衛ノ占領露國カ旅順口及大連湾ノ租借ハ著シク極東ノ均勢ヲ破壊セルヲ以テ英國ノ支那海ニ於ケル利益ヲ全ウスルカ為ニ餘儀ナクサレタルモノニシテ英國民ハ威海衛ノ無用廣濶タルヲ詰リ為ニ多年一貫シ来リタル支那領土保全ノ名義ヲ失フヲ怨ミトセリ

支那ノ大勢既ニ定マリ独逸ノ膠洲ニ據ル露國ノ旅大ニ拠ル時英國ノ利益圏ヲ侵犯セルニ外ナラサルヲ知ルト雖英國ハ之ニ向テ敢テ干渉スルノ無用ナルヲ看破シ可能的均勢ヲ保テ其侵犯ヲ大ナラサラシメント欲スルノ結局ヲ見ルヤ又九龍半島ノ租借ヲ求メタリ又列國ノ勢力範圏ヲ限定セントスルヲ見ルヤ又貿易上至大ノ関係アル揚子江流域ノ不割譲ヲ約セシメタリ近時英独協商ニヨリ支那領土ヲ保全シ利益圏ヲ保持シ他列國ノ特権利益ヲ得レトスルヲ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

妨ケサクトモ北清以外ニ於テハ之ヲ固持セント
欲スルモ現ニ英國ハ山東、河南、山西ニ於テ独逸ノ伸
展スル勢力ヲ排スヘカラサルモノアリ扨テ独逸ノ前
進頓ニ阻ラヘキモノアリ
カ北牛莊ヨリ南北海東ハ上海ヨリ西ハ重慶ニ至
ルマテ廣大ナル貿易圏ヲ
ヨリ難シ遂ニ勢範政策ニ依テ可及丈ケノ利得ヲ
占ムルヲ勉ムルノ外ナキヤ
多クハ失敗ニ終ルヘシ本
アレキセイクラウゼイ氏
希望ナリトテ示ス所ノモ
過キサルモノアリト雖モ英
英人一般ノ希望ヲ知ル
ニ

於テハ之ヲ固持セント
東、河南、山西ニ於テ独逸ノ伸
サルモノアリ扨テ独逸ノ前
ノ勢ノ轉下ハ英國
至
固
ト
コ
シ
レ
ニ保護セ
ノ
ヲ
ケ
丈
及
可
テ
依
ニ
ル
ヲ勉ムル
キ
ノ外ナキヤ
ヨリ英國ノ政策ハ本后
多クハ失敗ニ終ルヘシ本
アレキセイクラウゼイ氏
希望ナリトテ示ス所ノモ
過キサルモノアリト雖モ英
英人一般ノ希望ヲ知ル
ニ

足レハ次ニ掲ケン

一 支那全土ヲ各國ノ商人旅行者ノ為ニ洞開
スヘク各國民共ニ支那國内ノ各地ニ入リ
住居ノ自由ヲ得ルコト

二 各國民ハ絶對同一ノ待遇ヲ得ルコト

三 将来何國ニモ頒与ノ割讓ヲナサヽルコト

四 一切ノ不正課税ヲ廃スルコト

五 清國内ノ河川ニシテ外國貿易ノ為ニ開放
シテルモノハ速ニ実行ス
ルコトヲ聲言シタルコト

大廣東河及其附近ニ
ニ之ヲ處罰シ依借
セサルコト

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

北京ニ於ケル列國ノ代表者ニハ皇帝ト直接謁見ヲ許スコト猶ホ他列國ニ於ケルカ如クスヘシ

† De Martens Clercq Recueil, p. 612

(二)　獨逸ノ對清政策如何

獨逸ハ歐洲ノ列國ニ後レテ支那海ニ現ハレタルモノニシテ支那ニ於テ利害ノ關係ヲ生スルニ至リタルハ誠ニ近年ノコトニシテ現皇帝ウイルヘルム二世ハ世界的帝國主義、貿易擴張主義ヲ以テ起チ一八九六年以來極東政界ヲ樹立シ大ニ新勢力圏ノ擴張ヲ圖ラントス獨逸ノ極東ニ於ケル植民ノ失敗ハ則チ全ク支那ニ於テ回復セラレサルヘカラサルニ至レリ

日清戰爭ノ後獨逸ハ遼東同盟ニ加入シタルモ情時清國ヨリ得タル利益ニ於テハ遙ニ露佛ノ下ニ在リキ支那海ニ根擄地ヲ得ンコトスルニ急ナル獨

逸カ為スナクシテハアルヘキニアラス
独逸ハ単身独カ支那海ニ於テ
軍港ヲ占獲シ極東ニ海軍力
スルノ決心ヲナシ吉祥南清
ノ開港近キニ在ルヲ以テ同
據地ヲ占獲セント欲シ澳門
附近ノ一小島ラッパ
澳ヲ測量シタリト雖モ葡萄
牙ノ故障ニ遭フテ果サス依
サス又福洲北方海辺ノトン
ルモ是レ亦英國ノ抗議ニ遭フテ果サス依
テ私ニ時機ノ至ルヲ待チタルモノトス後リヒト
ホーヘン膠洲湾占領ノ利益
ニ賛シ専ラ準備ニ従事セ
ルノ時計ラスモ山東

ニ於ケル宣教師虐殺ノコト
トナシ一挙之ヲ占獲セント
セリ
独逸カ膠洲湾ノ経営ハ独リ
陸ニ開キタルノミナラス独
民ノ端緒ニ就ケルモノナリ
リ貿易ノ擴張ニアラスシテ
ス所ノ一大植民地タラシメ
独逸ハ漸ヲ以テ山東全部ヲ
ハ止マサルヘク進テ蘇洲徽
ノ東洋帝國ヲ樹立スルノ
希望ヲ有スヘシ聞ク
独逸皇帝ハ近時義和團ノ
乱ニ際シ白國公使ケ

ツトレルノ非ヤ之ヲ逐ヲルヤ独逸皇帝震怒ヒ東城頭ニ独逸ノ国旗ヲ翻スヘレ又支那ニハ南臺鐵ノ甲唐ヲ看ケメル擅ノ一屏ヲ屈向クヘレトノ玉ヒタリト以テ独帝意気ノ一端ヲ窺フニ足ラン」

独逸ノ希望ハ斯ノ如シ支那ノ属邦ニシテ顛倒セル所ナリ故ニ独逸ハ益支那朝廷ニ威壓ヲ加フルニヨリ成効ニ近クヘク是ヲ以テ巧ニ地方督撫ヲ操縦シ其欲スル所ヲナサントスルニ専ラナリ故ニ独逸ノ領土ノ希望ト貿易上ノ希望ヲ供セ有スルモノニシテ恰モ露國ノ希望ト英国ノ希望ニツナカラ侵有スルモノナリ故ニ独逸ノ政策ハ又英國ト露國ノ政策ヲ侵セヌンモノトス最ニ露國ト結托シ三國同盟ニ加ハリ領土ヲ獲得ヲ山東ニナスヤ露國ニ依ルノ必要先ツ去レリ寧ロ之ヨリ北京ノ侵畧ニ於テ北清境ノ貿易ニ於テ露國ト衝突スルヤモ知レス是ニ於テ政策ヲ一轉シテ英國ニ加擔シ露國ノ北清トス蓋シ独逸ハ内地露國ノ満洲ヲ拾テ、而シテ敢テ露ヲ捨テ、英ニ與ミス是レ独逸今日ノ立場ニ於テハ支那各地ニ亘レル自國ノ貿易及布教事業ヲ保護スルカ為ニハ清國領土ノ保全ヲ主張スルノ必要アルモノニシテ英國ノ政策ト相合スルモノアルヘシ然レ氏独逸ノ勢力ハ漸次山東ヨリ河南、山西ニ延伸

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ヒサルヘカラス故ニ清國中央
爭者トシテ又早晩英國ト衝突
ニ至ラン此間独逸ノ對清政策
レスヽシテ独逸ハ終ニ山東ヨ
ん黄河一帶ノ東洋帝國ヲ樹立
ヘシ

(三)

佛國ノ對清政策

佛國ノ南清ニ於ケルハ露國ノ
レタ自国領土ノ保安ヲ図リ利
ニ於テハ必要ノ生スル毎ニ
主ヲ侵蝕セサルヘカラス是レ
セルモノナリ故ニ佛國ノ對清
相一致シ歐ニ於ケル関係ト
モ攻守同盟ヲ以テ行動スヘ
推移ハ仏國ヲ駆テ此ニ至ラシ
ハ政策ヲシテ此ニ至ラシメタ
ナカんヘカラス
佛國ハ英國ト前後シテ清國ト
関係ヲ作レル旧

國ニシテ當初ニ於テハ佛國ノ清國ニ對スル希望ハ英國ト異ナラス多年英國ト協力シテ清國開放ノ任務ニ當リシモノトスル希望ハ獨リ通商貿易ノミニアラスシテ傳道事業ニテアリキ故ニ佛國ハ當初ヨリ決シテ清國ノ分割ヲ願フ所ノモノニアラス佛國ノ布教事業ニ熱中シタル佛國カ清國ト條約アッテ以來加特力宣教師ハ皆佛國ノ保護ノ下ニ置カレシコトヲ夫那政府ニ認定セシメタリ佛國ハ之ニ依テ漸次亜細亜ニ於ケル羅馬加特力教ノ覇者タラントノ大野心ヲ包藏シタリシナリ然ルニ戦近支那ニ於ケル列國ノ突進夫那分割ノ勢ヲ馴致シ佛國ノ清國ニ對スル希望ヲ得タル亦教上ノ特典大ニ減縮セラレスンハアラス佛國ノ當初懐抱シタル目的ハ漸ク齟齬セントス佛國ハ想ヘラク本日ノ大勢ヲ以テハ支那ノ獨立ヲ全カラシメ各處ニ自國ノ勢力ヲ樹立セントスル困難ナリ若カスシテ自己ノ利益ヲ固守スルニ若カスト大勢ニ從テ遂ニ利害ノ關係佛國ハ極東大勢ノ趨ク所ニ從ヒ上衝突点最モ少キ露國ト深ク結托セサルヘカラサルニ至レリ依テ衆遼同盟以來露國ノ政策ヲ助ケ露國カ北清ニ一歩ヲ進メ露國カ北清ニ一歩ヲ進ムレハ已レモ南清ニ一歩ヲ得レハ已レモ南清ニ一歩ヲ得露國カ鐵道ヲ敷設スレハ已レモ戚道

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ヲ延長シ露國カ敗カヲ支那ニ備シ清國ノ南北ニ於テ對峙（シンメトリー）ノ態度ヲナシテ極東ニ歩武ヲ進メントス収メシルハ今日マテノ経過之ヲ証セリ佛國カ支那ノ旧領土タル安南ヲ得タルハ既ニ古ク以来此地ヲ以テ對清根拠トナスコト露國ノ黒龍江一帯ニ於ケルカ如シ佛國ハ既ニ今日廣東、廣西、雲南、四川ノ諸省ニ勢力圏ヲ画ケリ而モ其利益勢力ヲ維持センカ為ニハ佛國ノ利益ト些ノ衝突ナキ露國ト結托セサルヘカラス露國ノ勢カモ亦京朝廷ニ樹立セラレンコトヲ希望スルコトハ佛國ノ最モ希望スル所ナリ又佛國ハ北清ニ事業ノ資本ヲ有タルコト多ク此等ノ事業ハ露西亜ノ如キ國ト雖モ容易ニ侵ス能ハサルコトヲ得ルモノナルヘシ而シテ露國ノ對清政策ト終始牴牾スヘシ而シテ佛國ノ害ノ関係ヲ有スルカ為ニ露國ハ佛國ノ利益ノ及フ所全支那ニ亘ルヲ以テ露國ト雖モ之ヲ奪ハサルヘシ之ト共ニ多年計畫シ来リタル宣教師ノ保護ハ佛國永遠ノ利益ト勢カヲ造成スルモノナルヲ以テ佛國ノ決シテ等閑ニ附セサル所ノモノナルヘシ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

米國ノ對清政策。

米國カ支那ト友好ノ関係ヲ作レルハ誠ニ一八四二年以来ニシテ列國ニ比レテ利害最モサク従来超然ノ態度ヲ取リ條約ニ規定セラレタル自國ノ利益ヲ保護スルニ勉メ今日幼稚ナル通商ノ発達ヲ希望スルニ止ルカ故ニ頗ル門戸ノ保全ヲ得テ開國主義ヲ実行スルヲ得ハ其目的ヲ達スヘキコトナラス是レ米國ノ能ク独カニシテ成就スヘキコトナラス

是ヲ以テ近年米人中ニハ對清ノ政策ヲ確定シ或ハ英國ト結ハンコトヲ主張スルモノアリ或ハ露國ト親マンコトヲ論スルモノアリ米國ハ近時太平洋ノ海面ニ亜細亜大陸ニ近接シテ頗ル擴張シ来レルヲ以テ将来ニ於テ支那ニ関係ヲ滋殖セサルヘカラス今日米國カ自己ノ通商上ノ利益ヲ保護スル必用上ヨリ考フルト雖モ主張シ来レル開戸政策ハ米國ノ政策ハ抜合セルモノトニハサルヘカラス英國又悦レテ之ヲ迎フヘシト雖モ米國ノ對清通商ハ英國ノ如ク盛大且廣域ナラス隨テ自己ノ利益ヲ侵害セラレサル限ニ於テハ列國ノ侵畧擾奪ニ對抗スルノ心要ヲ認メス故ニ英國ノ米國ヲ促シテ對清同盟ヲ提セン

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ヲ嫌忌スルコト甚シク隨テ米人ハ支那ニ對シテ
更ニ同情ヲ有セス其國ノ興トセト故ニ關セス頗
ルモヲ冷淡視スルノ觀アリ故ニ米國北方ノ強露
未タ支那ヲ破壞シ列國ノ間ニ分割セラルヽモ寧
ロ支那民族ノ未路ニ近クモノトシテ之ヲ悦フヘ
シ是レ尚ホ印度ノ如クセスシテ英國之ニ代リタルモ
ト異ナラサルヘシレトナスヘシ支那人ノ各國民間
ニ離散シテ到底一致團ノ管理ノ下ニ存留スヘキ
モノニアラサルハ米國ノ能ク認知スル所ナリ遂
ニ極東一敵民其國土ヲ亡フハ米國ノ生存上最モ
利益ナリ米國ハ未タ清國ノ
ス勉メテ領土ノ保全ヲ
スアラン
ンマトヲ
ヲ聲言シ

僅ニ三百年哩長江以南臟道ノ數設權ヲ得ルニ止
レルモ此地タル恐ラク將來ニ於テ自國ノ勢力
範圍タルヘシト認ムルモノニテ爭奪分割ノ曉未
ルニ於テハ此ニ割拠セントスルヤ必セリ

(五)　南戸政策及勢範分割ノ要概ノ列國ノ關背

支那ニ於ケル列國ノ政策ハ之ヲ以上ニ累述スル所ノ如シ而シテ政策ノ茲ニ外ナラス要スルニ帝國ノ利害ノ關係上ヨリ来ルモノニ於ケル列國ノ領土ノ係ヲ来ス所ノ要素ハ亜細亜ニ及支那ニ於ケル列國ノ貿易ナルヘシ故ニ今先ツ本題ニ入ルニ先チ両者ノ統計ヲ掲ケント欲ス

亜細亜ニ於ケル列強ノ領土

國名	領土	人口
露國	大、五大四、七七八	大、五大四、七七八
支那	四、三一八、四〇一	四、三〇四、〇〇〇

支那ニ於ケル列國ノ貿易（一八九五年）

輸出

國名	海關両
大英國	一、八二七、二三四、二九一
佛國	三一五、九二八、一八〇
日本	一六〇、〇〇〇、〇〇〇
独逸	五三、〇〇〇、〇〇〇

輸入

國名	海關両
英國	三三、九六〇、〇〇〇
香港	八八、一九一、〇〇〇
印度	一六、九四四、〇〇〇
其他英領地	四、五〇六、〇〇〇
日本	一七、一九五、〇〇〇

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

欧大陸		九、三四四、〇〇〇
合衆国		五、〇九三、〇〇〇
露國		一一〇、〇〇〇
		二一、一七二、〇〇〇
		一五、三八三、〇〇〇
		一五、六〇三、〇〇〇

之ニ依テ見ルモ欧洲列強中直接極東問題ニ就テ容喙権ヲ有スルモノハ英、露、佛、独、米、等ナルヘシ而シテ英国ニ於テハ領土上貿易上最モ利害ノ関係ヲ有キモノニシテ露佛ハミニ次ヲヘク独、米ニ至テハ近今漸ク其関係ヲ生セルモノニ過キス

表中ニ示スカ如ク英国及其植民地ノ対清貿易ハ全支那貿易ノ七割余ヲ占ムルモノニシテ英国ノ利益想望スヘク而シテ其範圍ハ支那本土ニ亘レリ故ニ世界通商ノ為ニ支那帝國全部ヲ洞開シ自由交通ヲナサシムル時ハ英国ノ貿易ハ益昇進シ競争上他國ノ通商ニ勝ヲ制シ長リ其利益ヲ収ムルコトヲ得ヘシ故ニ支那門戸ノ開放ハ既ニ四十七年前ニ於テ時ノ外務大臣クラレンドン卿ノ公使エルギンニ與ヘタル訓條ニ於テ定マル所ニシテ近時説ク所ノ屋金廃止等ノ如キ當時ニ於テ屡計畫シエルギン、ブルース、パークス等ノ公使顧事最モ実行ニ勉メタルモノナリキ

然ルニ時世ノ推移ハ亜細亜ニ巨大ノ領土ヲ有セル露佛等ヲシテ自國ノ支那ニ於ケル地位ヲ確ナラシメ益自國領土ノ保安ヲ要

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

スルノ時機来リ各其勢力範圍ニ從フテ支那ヲ分割セントスルモノナリ是レ所謂勢範政策ニシテ其政策ノ支那領土ノ保全ト相容レサルハ勿論亂暴大ナルヘシ是レ支那ヲ勢範ニ分割スルハ早晩カ領未ンヘキヲ救ユン為メニ英國ハ明ニ全貿易ノ五割ヲ失モノナリ各カ割地ニ於テ露佛等カ各其本國的課稅ヲナスニ於テハ英國ハ明フヘク為ニ英國カ年々蒙ル損害概算千八百万磅ヲ下ラサルヘシ独リ而ノミナラス仮ニ英國カ支那ノ揚子江ニ流域ヲ分割スルトセンカ其領地ノ辺疆防禦秩序保持ノ為ニ多数ノ陸軍ヲ要シ英本國ノ常備兵十万ヲ移スモ尚ホ足ラサルヘシ是豈ニ英國ノ能ク忍フ所ナランヤ是ニ於テヤ日清役後支那ノ大勢分割ニ傾クヲ見ルヤ英國政府ハ開戸政策ヲ公ニシ時ノ大藏大臣ミカエル、ヒクスビーチ[六]ハ開戸政策ノ目的ヲ述ヘ労費ヲモ辞セスト絶叫シ出殆大臣バルフオールモ亦英國ハ支那ヲ以テ欧洲其他ノ列強カ征服若クハ其植民ノ場所トシテ之ヲ目スルニアラン之ヲ目スルニアラン[七]ハ又曰ク清國ヲ侵害スルモノアレハ英國ハ之ヲ制シテ清國ヲ保維スヘシト宣明シタルニ於ケル歴史ハ遡テ孟茂教典[八]ヲ宣シカ較近ノ大勢列國ノ支那ニ於ケル歴史ハ遡テ英國ノ開戸政策ニシテ目的ヲ達セシムヘカラス」

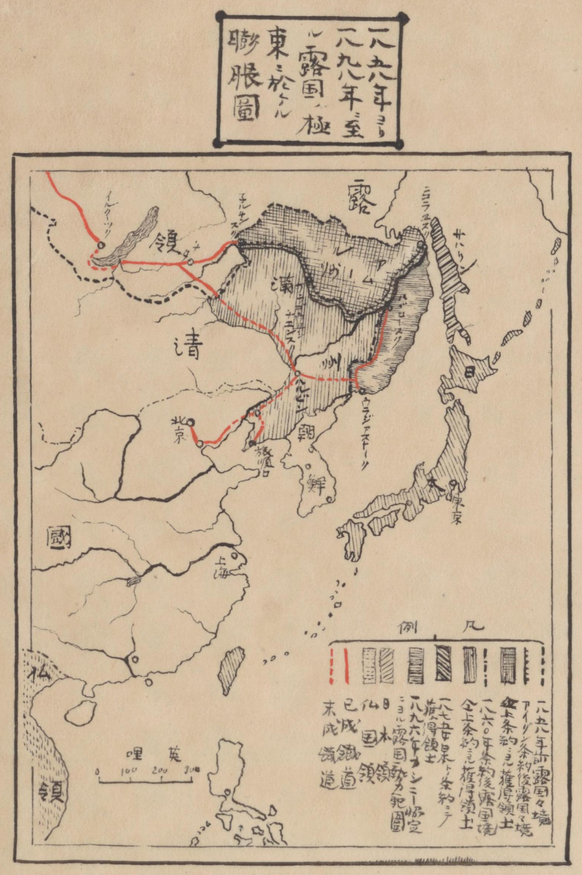
国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

門戸開放政策ノ意義ハ世界
列ノ各港ニ於テ同等ノ課税及同等ノ特権ヲ以テ
互市ヲ得ルヘキモノニシテ其主張ヤ公明正大ニ
シテ世界慈善ノ基督教主義ヨリ来レルモノニテ
萬國民ハ各一ノ権利ニ浴スルコトヲ得ルモノナ
リ随テ此政策ハ之ヲ政府家ヨリ見ル時ハ取ルニ
足ラサルノ議論ナリトスト雖モ而シテ英國ノ敢テ其名
義ノ美ヲ標榜トシテ之カ実行ヲ試ミ或ハ
フオートハ如キアリ日英又ハ日、英、米ノ各盟ヲ唱
導スト雖決シテ今日ノ利害ニ破ラル外交社會ヲ
左右シ得ヘキモノニアラサルナリ之ニ反シテ勢
力範圍政策タルヤ列強我狼ノ慶クコトヲ知ラ
サル欲ヲ逞クシテ支那帝國ノ富源ヲ分攫シ之ヲ
丸解シ終ラントメンニトヲ表明セルモノニテ其名
義ノ厳ツヘキニモ拘ラス終々実行ノ道ニアルモノ蓋シ
勝利ニシテ又支那ハ自ラ其歴史ノ過渡期ニアル
ヲ知ラサルヘカラス
日清戦争以前ニ在テハ英國ハ北京政府ニ強大ナ
ル勢力ヲ有シ殆ト清國殺治ノ権ヲ握リタルニ相
違ナキモ戦後露國ノ巧妙ナル外交ニ覆セラレ全
然其位置ヲ轉換セントスルノ如シ随テ英國
ノ主トシテ主張スル所ノ門戸政策ハ遂ニ其実行
ヲ見ルヘカラス露國カ牛耳ヲ握ル所ノ勢範分割

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ノ希望ハ事実タラントスル
ノ勢ナラスヤ英人アレキセイ、クラウゼーハ三ハ
ク今ヨリ五年前ニ在テハ支那ニ於ケル英國ノ政
策ハ容易ニ之ヲ事実ニスルコトヲ得タル
モ今日ハ既ニ遅シ只露國カ南下ノ限界ヲ定メ英
國ハ兵力ヲ以テ之ヲ充守セサルヘカラストメハ
ンニハク亜細亜ノ大勢ハ陸國ト海國ノ勝敗ニ依
テ定マルト而シテ支那ノ大勢ハ殊ニ英露海陸ノ
ニ強ニ依テ定マラサルヘカラス則チ談ニ云フ如
ク英露ニ國ハ支那ニ於テニロサス（Gallissus）
ノ泥土ノ両脚ノ如シ其形勢返々モトレテ危ク両國
ノ態度ニ依テニロサスタルヘキ支那ノ運命定マンヘ
キノミ此ニ臨ヲ於テハ餘他ノ諸國多クノ之ヲ語ル
ニ足ラス概子皆其大勢ニ従テ動クモノヽ、ニ近時
独逸ハ其向背ヲ英國トヲ異ニセントスルカ如キ形
勢アリト雖是レ一時ノ権誼ニ過サルヘク現ニ独
逸ハ勢範会割ヲ実行シ又実行ニ依テ其利益ヲ擴
張セントスルモノニアラスヤ佛國ニ於テハ同ヲ
リ露國ノ為ス所ニ反抗スヘクモアラス是ヲ以テ
清國ノ運命ハ今ヤ露國ノ指置如何ニ依テ定マル
ヘク列國ハ即チ露國ノ鼻息ヲ窺フテ其向背ヲ決
セントスルノ如ク重大ナル関係ヲ有スル露國ノ
對清政策ハ著者ノ別ニ意ヲ設ケテ之ヲ詳論セン
ト欲スル所ノモノナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305



紀元千八百五十七年

一八九八年一月十九日スワンレー演説

＊　＊　＊

ニ於テ述フル所ト

一八九三年十二月二日米国大統領教書ニ曰ク南北両米洲大陸ハ今後欧洲列国ノ将来植民地トシテ

孝梭セラレサルヘシ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

第四章　露清交渉史論

(一)　エルマーリノ西比利征服ヨリ愛琿條約締結ニ至ル

露國カ初メテ清國ト交渉ヲ開ケルハ露人カ西比利ノ大原ヲ蹂破シ遙ニ清國北邊ノ領域ヲ壓セシニ始マルベシ十七世紀ノ中葉ニ當リテハ一ノ商人カ長駆北部西比利ノ探検ヲナシタルノ後一五八〇年ニ於テ「カサック」驍將エルマークナル者出テトボルスクノ韃靼人ヲ征服シ一五八七年ヲ

以テトボルスク府ヲ開創シ以
（一八
の四年）ヤークーツク（一六
ツク（一六三八年）等ノ諸市
ヲ建設シタリ更ニ
一六三六年ニ於テ有名ナル肩
リヤークーツクヨリ海ニ至ル
険ナル水路ヲ發見シ
タルヨリ交通大ニ便利ヲ得露
人ノ漬々其跡ヲ追
フテ西比利ニ移住スルモノ多
シテ新都邑ヲ開キ遠ク東方黒
多ク所在前蘇ヲ芟除
龍江畔アルバーじ
ン、地方ニ於テモ往々露人ノ
居留地ヲ見ルニ至
レリ
然ルニ黒龍江一帯ノ地タル支
シ土人及韃靼人等露人ノ侵入
那政府ノ顧域ニ係
ヲ以テ快シトセス
遠近時ニ應シテギヲ以テ起チ逐ニ露人ヲアルバー
じン外ニ放逐セリ是レ露清兩國ノ境界ヲ黒龍江上時ニ兵
端ニシテ之ヨリ年闘常ニ絶エス交ヲ開キ有隙年一六八九年
大ヲ交ユルニ至レリ此間四十
露使ゴロー井ント清使索額図
ヲルチンスク條約ヲ以テ露人
ノ間ニ訂結シタル
外ニ立チ去ラサルヘカラサル
ハ一先ツ清國領土
清ノ聖祖皇帝ノ時ナリキ
ニ至レリ是レ実ニ
清朝既ニ子ルチンスク條約ヲ以テ露人ヲ國外ニ
放逐シテヨリ大ニ其領域権ヲ伸張シ露人ノ黒龍
江ヲ航行スルヲ厳禁シ且ツ其支那領ニ侵入セル
露人アルトキハ毫モ假借スルナク直ニ之ヲ捕縛

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

シテ牢獄ニ投セリ其法ヲ
一例ヲ擧クレハ一大九四
人清領ニ入リテ狩獵セル
ハ之ヲ扼ヘテ予ルナシス
メルニ露國官吏恐懼措ク
所ヲ知ラス支那人カ再
擧露領ヲ侵犯センコトヲ
慮リ清官ノ意ヲ迎ヘン
トシテ遂ニ犯罪者ノ首ヲ
刎子テ後日ヲ戒メタリ
トサヘ云ヘリ斯ノ如キ事
件ハ屢起リタル所ニシ
テ其都度罪人ハ清官自ラ
ヲ待ツヘキハ甚タ稀ナリ
キニ非リ更ニ協克図除約
除清國政府ノ其境域ニ對
スル戒嚴タル稍々緩ミ
タルモノヽ如シトゴヘリ
現世紀ノ始ニ於テ露國官吏ハ黒龍江ノ航行權ヲ
獲シト欲シ事情ヲ具シテ清廷ニ表面ノ請求ヲナ
シタルカ一八〇五年ナリシカ清廷久サス其後拒テ提
議スル所アラサリシカ一八四年ニ於テカラ心ヨ
リノ將軍カ來部而比利ノ總督ニ任スルト共ニ黒
龍江ノ果シテカイチヤウカ平島トノ交通ノ便ヲ
助クルニ足ルヘキヤ否ヤヲ探検セシカ爲ニ清國
政府ニ一應ノ照會ヲ經スル迄ニ其部下ノ官吏ニ附
スルニ「カサフク」兵ヲ以テシ探測ノ途ニ上ラ
シメタリ探検隊ノ黒龍江邊ヲ徘徊スルモノ実ニ
三年其間處在ニ居留地ヲ開キタリ是ニ於テ予露

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

人ノ決意ハ益強固ニシテ一
遣シテ黒龍江ヲ溯ラシメメ
ク府及「マリンスク」府ノ開始
ニ一八五三年ニ於テハアレキ
及コレスタンチノースク等
両市共ニ予ルチンスク條約
シタルモノナリキ
一八五四年清國官吏ハ露人
條約違犯ナルヲ以テ之ヲ東
セリムラヒヨーフ総督答フ
リテ商業ヲ営ミツヽアル者
止ヲ得サルニ出ツル者ヲ以
シタルモ清官固ク

一八五一年断然軍艦ヲ
タリ今ノニコラエフス
ハ此時ニ立ルナリ更
レキサンドロフスク
ルモ此
ノ黒龍江航行ハ全ク
東部西比利総督ニ詰問
フルニ清國住民間ニ入
荷物ヲ供給スルカ

執テ肯セス舩舶ヲ直ニ予ル
コトヲ請求セリ此時恰モ欧
洲ニ於テクリミヤ戦
ラレ黒龍江ヲ遍ルノ外
ヲ開ニシテ黒海ハ封鎖セラ
オホーツク海トノ交通モ全
ムラビヨーフ将軍ハ断然ト
トシテ「カザーキ」千名大砲数
組織シ舶艦相衝ニ推撰空ヲ
メタリ明年ニ至リ尚三千ノ
而名荷物食糧ノ類ヲ運搬セ
地及埠頭ヲ造営シタリシカ
抗ノ色アリ然レトモ清國政
髪賊ノ猖獗ナルニ逢フテ出
兵ノ餘裕ナク頗ル窮

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

因ノ地ニ在リテ露國ハ見テ以テ拋棄ス可ラストナシ公然清廷ニ向テ境域變更ノ議ヲ提出シタリ清ノ當局内外敵ヲ受ケ狼狽錯愕策ノ出ツル所ヲ知ラス露國ノ請フカマヽニ黒龍江以北ノ地ヲ全然割讓スルノ約ヲ結ヘリ是レ即チ一八五八年ノ愛琿條約トナス露國ハ斯ノ如クシテ當初希望シタルモノ之ヲ滿タンカ如ク思ヒ龍江以北ノ地ヲ顧ミスル能ハス更ニ其南方ニ顧土ヲ擴ケント企テタリ是レ露國カ西比利領土ノ自衛上止ムヲ得サル盡策ナリトス一八六〇年ニ於テ露國ハ恰モ北京政府カ英仏聯盟軍ト暴行蜂起トノ爲ニ再ヒ内外ノ敵ヲ受クルニ及ヒ進退ノ窮ヲ知ルヲ以テ更ニ機ニ乘スヘキモノナリトシ黒龍江ノ支流烏蘇利河ヨリ其以東一帶ノ海ニ面スル土地ヲ要求シテ止マス清廷事情爭議ヲ許サヽルヲ以テ容易ク之ヲ放擲セリ是ニ於テ露國ハ東方ニ於ケル根拠地ヲ固メ併ニ他日ノ風雲ヲ觀望スルノ時機ニ到達セン事ヲ新領地ノ經營ニ急ハシク又他ヲ顧ミルニ暇アラサルナリ

（二）露國支那研究時代（天津條約ノ締結）

露國ハ斯ノ如ク一方ニ廣大ナル領土ヲ獲得スルト共ニ他方ニ於テ又多大ナル政治上ノ利益ヲモ占得シタリ之ヨリ サレク其間ノ消息ヲ說カントスルニ當テ曾テ清ハ露人數十名ヲ捕縛シ北京ニ送附シ又條約ノ訂結ト共ニ露國ハ自己ノ地歩ヲ堅クセンカ爲ニ清國ニ向テ充分ナル外交關係ヲ確定セント欲シ一大九二年ヲ以テ特ニ全權ヲ遣ハシテ親シク清帝ニ謁見セントヲ求メシメタリ將軍不幸ニシテ謁ヲ得サリシモ北京監囚ノ露人ニ對シ儒侶ヲ送ルコトヲ許シ教誡ヲ垂レンカ爲ニ一名ノ儒侶ヲ北京ニ入ラシメ可セラレ直ニ一大九八年教育スルト共ニ研究スルノ便宜ヲ得タリ後一九二七年更ニ數名ノ儒侶北京ニ入リ露人ノ子弟ヲ教育スルト共ニ傍ラ彼等ハ支那語ヲ研究スルノ便宜ヲ得タリ一九三年北京ニ教會堂ヲ建立シ露國人ノ居留地ヲ許サレ頗ル盛況ヲ呈シタリ此間ニ於テ露人ハ支那人ノ自由出入ヲ許サレ頗ル盛況ヲ呈シタリ此間ニ於テ露人ハ支那語ニ造詣スルハ勿論支那人風俗習慣ニ通曉スルヲ得タリ後年露國カ清國ニ對スル外交談判ニ於テ他國ヨリ便利ヲ得タルモノハ此等北京居留者ノ與テカアルモノ多シトイヘリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

露本國ノ各都府及ヒ西比利
ニハ実ニキヤフタ、ウルガ、カ
沙漠ヲ横ヲガルヘカラス此
易通商ノ為ニ隊商等ノ往来
カハ清國政府ヨリ敢テ之ヲ
アリシカ公然露商ニ向テ之
ニ八五八年ノ天津條約ノ規
ハ露清兩國政府ノ對等權露
ルノ權等ヲ認定シ且ツ清國
ヲ開キ露國領事ヲ駐剳セシ
タルモノトス其他露國ヨリ
克尼向ニ郵便開始ノ件等ヲ
承認シタリ一ハ大ワ

利ヨリ北京ト交通セン
カルガンヲ経テゴビ大
此通路タル数世紀間貿
通行シ又ル所ナリシ
ヲ咎セスヌ問ニ附シ
許容シタルハ彼ノ
天津條約
ニ公使館ヲ設置ス
港湾

年ニ至リ露國ハ更ニ此條約ヲ改正セル北京條約
ヲ結ヒヌ是レ清國在留ノ露
キモノニシテ歩一歩露人ノ
扶植ニ勉メタルモノトス北
カシユ湖イレツク、クル湖等
河沿岸ノ境域ヲ改正シ兩國
於テ自由貿易ヲ営ムヲ許シ
權ヲモ與ヘウルガニ露國領
ノ自由ナル往来ヲナサシム
モノハ清國内地ノ何レニモ
ル規定ヲナセリ露國政府及
結ト共ニ政治上及貿易上清
國ヨリ充分請求ス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

キ又ハ權利ヲ得テ更ニ餘ス所ナク之ヨリ跡次期ノ活動期ニ迄カントセリ

(三)

中央西細亞ニ於ケル露清ノ葛藤

一聖彼得斯堡條約

露國カ東部西比利ノ經營ハ一八五八年烏蘇利境古嶺ヲ以テ一大段落ヲ告ケ南末專ラ守成ノ位置ニ在ルコトハ前條之ヲ說クカ所アリタリ然ルニ西部西比利ニ於ケル露清境上ノ問題ハ未タ安全ナル解釋ヲ經スト頗ル不穩ノ狀態ニ在リ俄然一八大三年ニ於テヴンガリアノ周教徒等蜂起シ北京政府ノ覊絆ヲ脫セントスルニ當リ露國ト露領土耳機斯坦ノ間ニ介マルノ地域ナルヲ以テセミレテンスク地方ノ露人ハ日夜戰々兢々トシテ安ンスル能ハス一日モ早ク暴徒ノ沈靜ニ赴

ヲ希ヘリ是ニ於テカ露國ハ當然國際法上自衛
ノ態度ヲ取ルノ必要アルヲ以テ露ノ哥薩克兵
ヲ「ブラゴベシチエンスク」ト清人カ無益ノ闘争ヲナセ
ルニ乗シ軍ヲクルルヤニ進メ一擧シテ伊犂ヲ占
領シタリ此時露國ハ北京ニ周旋ヲ尽シ間接徒ノ
乱ヲ全ク露國ノ遠征ニ因ルカスコト大ニモ清國政
府カ秩序恢復ノカナキヲ認メタルヨリ是ヲ以テ當然國際
法ノ原理ニ依テ自ラ顧ノ擧ニ出テタルヨトヲ以テ
セリ清國政府モ露國ノ擧動ノ理義明晰ナルヲ以
テ敢テ異議ヲ挿マス且又一時ノ擧ニ過サルヘシト
信シ暫クソノ認容スルト同時ニ援軍ヲ左宗棠
ニ送レリ左宗棠ハ銳意叛徒ノ鎮壓ニ従事
セリ偶ヘ

徒首點ヤカブボク死シ亜軍擣ニ相関ヌニ乗シ終
ニ克ク之ヲ破ルヲ得タリ一八七七年ノ十二月ヲ
以テヤブカンドヲ恢復シ次デカシュガルノ地ヲ
陥レ年末全ク暴乱ヲ鎮定スルヲ得タリ是ニ於テ
乎清國政府ハ露國ニ向テ伊犂ノ兵ヲ撤セ
シコトヲ要求シタルハモ露國
ハ禍根全ク去ラストシ
テリバディア條約ヲ締結
セシメタリ該條約ハ即
チ露國カ尚ホカシュガル
ノ咽喉ヲ扼スルノ
ミナラス此時清國ノ
支払フヘキ償金額ハ五、
〇〇〇、〇〇〇「ルーブル」ト定マリキ雖テリバデ
ア條約ノ締結者カ北京ニ
歸来シ該條約ノ批準ヲ
奏請セントスルヤ清政府ハ此條約ヲ不法ナルモ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ノトナシ直ニ抗戦ノ準備ニ急ハシク一面使ヲ露都ニ馳セ露廷ニ厳談スル所アラシメタリ当時ゴルドン将軍モ使命ノ一行ニ加ハリ露都ニ入リ平和條約ノ改訂ニ頗ル尽力スル所アリキ改訂談判ハ斯ノ如クシテ開始セラレ此ニ聖彼得斯堡條約ノ成立ヲ見タリ露國ハ清國ノ請ヲ容レテ大ニ譲歩シ全然占領シタル土地ヲ捨テ賠償金ニ於テ增額セシムル所アリ又満洲河川航行ノ権モ同時獲得スル所アリキ改訂談判ハ一八八一年露國ハ伊犁ノ兵ヲ撤シ是ニ於テ両國交情旧ニ復シ境上ノ問題全ク解釈サルルニ至レリ露國ハ之ヨリ漸次萬般ノ準備時代ニ入リ自ラ他日ノ風雲ヲ俟テ大ニ對清ノ政策ヲ実行スベキ期ヲ俟テリ露國ヤ実ニ事変ノ衆スベキハ即チ衆シ未タ一度モ其機宜ヲ誤ラズ着々成功ニ近ヅキツツアリ天下露國ノ如キハ蓋シ罕ナリ而シテ更ニ近キ二十年間ニ於テ露國ハ支那ニ於テ如何ナル成功ヲナシタルカ吾人ノ之ヨリ説カントスル所以ノモノハ是ナリ請フ刮目シテ観ヨ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

四、露國ノ深慮遠謀――支那及朝鮮ノ檢測調査

世ノ論者ハ露國ノ亜細亜侵略ヲ以テ亜歴山拿彼岬当時ノ計画ヲ承ケテ英領印度ノ獲得ヲナスヲ以テ最終ノ目的ト爲スモノナリトシ蓋シ露國ハ決シテ尓カク殺リ露帝(ツアール)ノ深仁厚恵、徒ラニ人ノ國ヲ屠ルヲ以テ悦トナスモノニアラス露帝(ツアール)ガ衷心世界ノ平和ヲ愛スルノ情念ハ透テ止ムナクニハ亜洲ノ民ヲ其配下ニ置カントスルノ挙ニ出テントスルノミ豈ニ他アランヤ露帝ハ其宏漠ヲ天命ニ享ケテ敢テ行フニ狐疑躊躇セス尚モ平和ヲ唐ラルヽモノ其進路ニ横ハルヲ排除スルモ或ハ猛然トシテ印度ノ中原ニ突進セン孟シ露國カ印度ニ進攻スルヤ一面ハ中央亜細亜ニ面ハ清國ヲ経由スルヲ以テ最モ捷径トス普ク普ク世人ノ熟知スル所タリ露國カ方策ヲ此ニ樹テ着々清國ノ地理民情ヲ探究スルニ鋭意心ヲ用ヒ実ニ伊犂撤兵後即チ一八八一年ノ事ニシテ以来一八九五年ニ至ル凡ソ十年間ニシテ世人ハ何事カ此間ニ成就セラレタルカヲ知ル者キモ深慮遠謀尚モ輕擧ヤザルハ露國ハ此長年月ニ渉リ素養ヲナセリト雖モ自ラ他ノ風雲ニ乗スルノ間ニ清國ノ各方面ニ

派遣セラレタリ胡索克軍隊ハ
ト称スル測量隊ヲ護衛シタリ
者ノ清國ノ地理地勢地質等ニ
自身等カ到底企及スル能ハサル
國人モ其智識ニ於テ之ニ及ハ
ニ欧米ノ學者論客モ一度支那
ル研究ヲ遂ケンコトヲ欲セハ勢ヒ
參考書冊ト「モスコーピヤ」測量
図トヲ披閲セサルヲ得サルナリ露國ノ執拗根
豈ニ驚カサルヘケンヤ尽瘁セラルヽモノ斯
露國カ多年支那帝國ノ調査ニ
ノ如シ而シテ又露國ハ同様ノ調査ト同様ノ研究

ヲ高麗半島ニ於テ成就シ黒竜島蘇利ノ江畔ヲ占
奪シテ此ニ四十年以来時々刻々彼カ胸臆ニ包藏
セル東邦地域ノ測設ヲ怠ラサリキモノアリ露國ハ実ニ四十年前ヲ於テ自カラ称
シテ東鎮（ウラジーヴォストーク）ト称スル浦塩斯徳港ヲ得タリト雖浦塩
斯徳港タル世人ノ知ル如ク一年ノ半ハ氷ニ亘リテ氷鎖ノ厄ニ罹ルヲ以テ太平洋ニ於テハ露國海
軍ノ根據之ヲ以テ完シト云フヘカラス露國ハ其
自衛ノ必要上更ニ格好ナル一港ヲ太平洋岸ニ於
テ得ル所ナカルヘカラス露國ノ此野心ヲ包藏ス
ルヤ久シ故ニ高麗半島ノ沿海ニ早ク既ニ之ヲ測
定シ了リ自ラ良港湾ヲ発見スル所勘カラズト雖

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

露國ノ敏慧ナル若シ躁急此方面ニ手ヲ着クルアラン カ忽チ對時國ノ早急干戈ヲ以テ起ウモノアルヲ知リ時機ノ未ダ熟セサルヲ見テ彼ハ其得意ナル耐忍持久ノ政策ヲ把テ私ニ此方面ノ野心ヲ抑壓シ以テ露國ハ其餘地ノ列國ガ此間ニ於テ一歩タリトモ鶏林半島ニ足踏ミヲナスヲ肯セザルベク日夜外國ノ動靜ニ看官ノ留意シテ急ニコナカリキ故ニ一八五年ノ如キ大英國ガ俄然巨文島ヲ占領スルヤ露國ノ外交官アラユル英國ニ向テ激烈ナル抗議ヲ提シ遂ニ其盟主英國ヲ以テ其占領地ヨリ退去セシメタリ露國ハ此時北京ニ於テハ英國ノ駐清公使ニ明白ナル証言ヲ与ヘテ曰ク露國ハ設令ヒ尺ノ撮土タリトモ朝鮮國領ノ地域ヲ占得スル所ナカルヘシト実ニ英國ノ強ヲ以テスルニ遭シ遂ニ虽モ露國ガ斯カル大胆ナル公言ヲナスニ遭シ遂ニ其要求ヲ撤スルノ止ヲ得ガルニ至ラシメタル者トス吾人ハ当時露國ノ斯ノ如キ擧措ヲ以テ頗ル了解ニ苦ムモノトセリ何トナレハ彼ガ領土ノ自然ノ延長部ナリト考フル高麗半島ヲ惜気モナク一朝ニシテ放擲スルノ勇断ヲ以テ頗ル異トシタレハナリ然ルニ其後ニ至テ発作セル所謂東洋二大事変ト称スルモノハ経過ノ跡ニ就テ察スルニ果シテ露國ノ大胆ナル公言ハ依然露國ノ利益

ヲ保護スルノ保障タリシヲ見ルナリ是ニ於テカ吾人ハ益露國ノ卓見奇抜ノ政策ニ驚服セサルヲ得ス又請フ吾人所謂二大事変ナルモノハ発作及経過ヲ說カンメヨ

五、日請戦爭ト露國ノ干渉

「一條約

一八九五年日請兩國カ兵火ヲ交ヘ日軍全擅ヲホシテ事終局ヲ告ケルト共ニ露國ノ對清政策ハ全ク事前ニ比シテ一変セリ此戦爭ノ結果ハ正章之ヲ說クカ如ク支那民族ノ根本的腐敗ヲ確証ヲ世界ノ表ニ暴露シタルモノニシテ露國カ対清政策上新ニ得タルノ智識タルハ決シテ少小ナラス今ヤ其事前ニ於テ探索スルニ日請戦役ノ当初ニ於テ請國ヲシテ開戦ノ決意ヲナサシメタル者ハ寧ロ露國之カ後楯者ノ位置ニ立テタルニアラサルカ「ツアー」ハ爾ラセハ密旨ハ此ニ請帰ヲ動カ

シタリト云フノ信ニ近キヲ知ルナリ是ヲ以テ若シ此戦役ヲシテ若シ清國ノ勝利ニ帰セシメタラニハ露國ノ利得ハ殆ド皆無ナリシト云ハサルヘカラス故ニ露國カ当時ノ政策タルヤ之ヲ挺進挑撥シ事端ヲ早カラシメ豫メ清ノ敗衂ヲ待テ徐ロニ自己ノ希望ヲ達セントシタルニ在ルヤモ知ルヘカラス露國ノ洛眼慧智実ニ意表ニ出テスヤ足ラス交戦八ケ月ノ後戦争其極ヲ結ヒヤ日本ハ戦勝國当然ノ権利トシテ相当ナル平和ノ条件ヲ提出セリ乃チ下ノ関條約ノ要点トスル所ハ朝鮮ノ独立ヲ承認シ遼東半島及臺湾ノ永久占領二億両ノ償金等ナリキ既ニシテ平和條約ノ批准公表セラルヤ露國政府ハ日本カ亜細亜大陸ニ於テ土地ヲ占得スルハ東洋ノ平和ニ害アリ成ヘク支那帝國ヲシテ保全セシメントノ抗議ヲ提起シ仏独両國モ亦之ニ同盟シタルヲ以テ日本ハ三國ノ要求ヲ拒絶スルニ忍ヒス事ノ真理ヲ認メ僅ニ償金額ヲ増シ全ク遼東ヲ返還シタルノ事実タルヤ著者既ニ説ク所アリ又今尚ホ読者ノ記憶ニ新ナルモノアルヘケレハ細説セス露國ハ斯ノ如ク日本カ戦勝当然ノ報酬(大陸ニ於ケル土地獲得ノ利害ハサテ置キ)トシテ獲得シタル邦土ノ返還ヲ求メタルカ為メニシテ勿論上大陸ノ保全ヲ必要トシタルカ為メニシテ

論北京政府ト雖露國ガ斯ノ如キ干渉ノ労ヲ取ル所以ノモノハ独リ清國ノ利益ヲ保護スルトニ止マラサルハ之ヲ覺テ（テサル）ニアラス当時泰政ノ政治社会ニ於テハ露國ノ遠般干渉ノ労ヲ取ルヘキ前ニ於テ既ニ清國ヨリ受クヘキ報酬ニ就テハ凝議スル所アルタル者ナリト推測シタリトサヘ云ヒ是シ蓋シ露國ガ日本ニ怨ヲ買フヲ敢テナシ（怨ムノ理由ナシトスルモ）其労力ヲ惜マザリシニ対シテ当然報酬ヲ清國政府ニ要求スルノ権利アルヘキヨリ露國ハ搏狙抗衡ノ間絶大ナル成効ヲナシ此事変以来極東ノ外交政策ニ於テ容易ニ多望ナル一新局面ヲ打開シ得タルヲ以テ自ラ得色アリ読者ノ知ルカ如ク一八九六年ニ於テ李鴻章氏ハ清國皇帝ノ特使トシテ露ノ今帝戴冠ノ式ニ参列セシガ為メ莫斯科府ニ向ヘリ李ノ露國ニ滞留中ハ当時ノ外務大臣ロバノフ公ト数次ノ会見ヲ遂ゲタルハ実ニ隠シナキ事実ナリキ而シテ李ガ此時ニ於テ締結シタル協定タルハ全ク李ガ露國ニ出立スルニ先チ既ニ北京駐剳ノ露國公使カシニー伯ノ立案ヨリ出テタルモノナリシト何人モ之ヲ疑フ能ハス是レ所謂露清ノ密約ナルモノニシテ露清両國ノ全権ロバノフト李鴻章ハ一同意セリ協定ノ要点ト議ニ及バヾ直ニ此協定ニ同意セリ協定ハ所謂露國ハ常ニ清國ガ外國ノ侵掠ヲ蒙ムル

場合ニ於テハ之ヲ妨害シ清國ノ保全ヲ計ルヘシ隨テ又清國ハ露國ノ自衛的膨脹ヲ容易ナラシムルト共ニ滿洲ニ鉄道ノ敷設ヲ許可スヘシト雖モ露國カ遼東返還ニ依テ得タル報酬ナリシトハ當時何人モ知ル所ナリキ

✝大清國皇帝ハ日清交戦ノ後大露西亜皇帝カ深ク清國ヲ助ケ遼東ヲ索取シタルニヨリ現在両國交界地方ノ通商貿易ニヨリ両國相互ニ裨益シ好和永久敦クセン爲メ特ニ兵部大臣等ヲ簡ビ授クルニ全權ヲ以テシ露國駐京全權大臣ト西伯利亜トノ鉄道布設章程ヲ議訂セシメ而シテ大民貨物ヲシテ流通ニ容易ニシ交界地方及ヒ沿江口岸モ亦愼重堅固タルヘキヲ得シムル此外別ニ善美ノ法アリヤ皆互ニ相弁理スルヲ得シム

第一 露國ノ西伯利亜ニ敷設スル所ノ鉄道ハ将ニ成ラントス清國ハ其鉄道ヨリ左ノ諸線ニヨリテ清國領内ニ延長スルヲ准ス

(一)露國ノ浦塩斯徳ヨリ清國吉林省ノ琿春ニ至リ琿春ヨリ西北ニ向テ吉林省城ニ達スル

(二)西伯利亜ノ或ル帝府ヨリ清國黒龍江ノ愛琿ニ至リ愛琿ヨリ西南ニ向テ斉々哈尔ニ至リ斉々哈尔ヨリ伯都訥ニ至リ再ヒ東南

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305

ニ向ヒ遠リテ吉林省城ニ至ル

第二　露國ガ清國ノ黒竜江、吉林省等ノ処ニ敷設スル鉄路ハ其貴皆露國ヨリ支出シ敷設ノ法モ露國ヨリ主裁スル露國ハ之ヲ管理スル事三十年、期満ツルノ後ハ清國ハ豫備ノ銀両ヲ以テ之ヲ購買スル其章程ハ時ニ及ンデ再ヒ商議セン

第三　清國今既ニ鉄道一條アリ再ヒ山海関ヨリ奉天府城ニ至リ奉天府城ヨリ吉林省城ニ延長セントス然レドモ将来ニ於テ清國自ラ之ヲ布設スルヲ不便トセバ露國ノ豫備ノ銀両ヲ以テ清國ニ代テ吉林ヨリ起工スルコトヲ准スル而シテ後清國之ヲ購買スベシ唯此線路ハ清國ノ検定ニ由リ奉天、牛荘等ノ処ニ達ス

第四　清國敷設スル所ノ鉄道ハ山海関ヨリ奉天、牛荘、金州、旅順口、大連湾等ノ処ニ至ルト雖モ露國ノ章程ニ照シテ露國ノ往来ニ便セン為メ弁理セシムヘク願クハ両國ノ往来ニ便セン

第五　露國ノ清國ニ敷設スル鉄道ノ経過地方ハ清國文武官之ガ保護ヲ為シ一切ノ露國鉄道事務弁理ニ対シテ清國文武官及ヒ土人ノ阻撓スルコトナカラシメハ事ニ従フニ便ニス然レドモ鉄道経過ノ地方ハ多ク砂磧

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 305